

令和 2 年度
豊島区動植物生態調査報告書

令和 3 年 3 月

令和2年度 豊島区動植物生態調査 報告書
目次

第Ⅰ章 調査の目的および概要	
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の概要	1
第Ⅱ章 調査の内容	
1. 調査の対象および方法	2
(1) 植物	2
(2) 昆虫類（大型種）	2
(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）	2
(4) 水生生物調査	2
2. 調査地	
(1) 南長崎はらっぱ公園	3
(2) 南池袋小学校	4
(3) 西巣鴨小学校	5
(4) 仰高小学校	6
3. 調査期間	7
4. 確認種の評価方法	8
(1) 国および都レッドリスト記載種	8
(2) 外来種	9
第Ⅲ章 動植物生態調査結果	
1. 植物調査	11
(1) 調査結果概要	11
(2) レッドリスト記載種	18
(3) 外来種	20
(4) 各調査地の植物確認状況	26
(5) 植物調査のまとめ	38
2. 昆虫類調査	41
(1) 調査結果概要	41
(2) レッドリスト記載種	41
(3) 外来種	42
(4) 各調査地の昆虫類確認状況	46
(5) 昆虫類調査のまとめ	52
3. その他小動物調査	53
3-1 哺乳類	53
3-2 爬虫類	53
3-3 両生類	53
(1) 調査結果概要	53
(2) レッドリスト記載種および外来種	53

(3) 各調査地の両生類確認状況	54
(4) 両生類調査のまとめ	54
4. 水生生物調査	56
(1) 調査結果概要	56
(2) レッドリスト記載種	56
(3) 外来種	58
(4) 各調査地の水生生物確認状況	59
(5) 水生生物調査のまとめ	68
5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案	70
(1) 南長崎はらっぱ公園	70
(2) 南池袋小学校	71
(3) 西巣鴨小学校	72
(4) 仰高小学校	73
(5) ビオトープ全般に対する提案	73

第 I 章 調査の目的および概要

1. 調査の背景と目的

本調査は、平成 31（2019）年 3 月策定の「豊島区環境基本計画」の施策をふまえ、生物多様性に関する情報収集のためのモニタリング調査を目的としている。

平成 27 年度までに、区内の特に重要と思われる緑地は調査を概ね終了した。しかし、区の西部の小規模の緑地については生物相が把握されていないことから、平成 28 年度には区内西部に 1.5km 程度のルートを設定し、昆虫類や小動物の調査を行った。平成 29～30 年度には区西部に位置する南長崎はらっぱ公園ビオトープにおいて生物多様性保全に配慮した維持管理と植物の概況調査および水生生物調査を行った。

「豊島区環境基本計画 2019-2030」では、生物多様性を保全する重点施策の中に「自然環境の保全と創出」を掲げ、区有施設ビオトープの整備と維持管理が進められている。区有施設ビオトープの中の学校ビオトープについてもモニタリング調査が平成 31（令和元）年度から開始されている。

今年度は、区有施設ビオトープのうち、南長崎はらっぱ公園と南池袋小学校、西巣鴨小学校、仰高小学校のビオトープを選定し、その動植物相の把握を目的とした。

2. 調査の概要

調査の対象とした分類群は、植物、昆虫類（大型種）、その他の小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）、水生生物（魚類、水生昆虫類、甲殻類等）である。各分類群で年 2 回とし、それぞれの特徴を把握するために最適な時期を設定した。調査工程を表 I-2-1 に示した。

表 I-2-1 動植物生態調査の工程

調査項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植 物											
昆虫類											
水生生物											
その他小動物											

第Ⅱ章 調査の内容

1. 調査の対象および方法

(1) 植物

調査対象は、維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）とした。なお、対象とした種は、自生種と植栽種とした。自生種は、在来種の他、外来種、逸出種を含む。

これまでの調査地では、外来の園芸用の草本類は観賞目的で入れ替わりが激しく、その調査地の植物の自生状況を把握する上では重要でないため、除外していた。しかし、周囲に緑地の少ない都市部のビオトープでは吸蜜昆虫などがこれらに飛来する効果があること、また、外来の園芸用の草本類が野生化する恐れもあることから将来的な維持管理の観点からも、記録を行った。これらが、逸出して自生状態にある場合は、逸出種として、記録を行った。植栽種の判断は、調査地の立地条件、植物の分布域、栽培品種・外来種であるか否か、花壇や植栽地に列になって生育しているかなど、植栽と思われる状況などをもとに行った。

調査方法は、調査地を踏査し、目視による種の確認を行った。

(2) 昆虫類（大型種）

調査方法は、任意採集による見つけ採り法、スウィーピング法を用いた。対象とする昆虫類は、生態に関する知見が比較的蓄積されている大型昆虫（トンボ類、カマキリ類、バッタ類、セミ類、カメムシ類、チョウ類など）を基本とした。訪花性昆虫を調べるため、ハナアブ類、ハチ類なども記録した。

※スウィーピング法：捕虫網により、樹上や草地にいる昆虫類をすくい捕って採集する調査方法

(3) その他の小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）

昆虫類調査および水生生物調査時に並行して実施した。調査方法は、調査対象地を踏査し、目視による種の確認を行った。

(4) 水生生物調査

魚類、水生昆虫類、甲殻類等、肉眼で目視できる水生生物を対象とした。

調査方法は、タモ網及び魚用小型網を捕獲する方法とした。捕獲後、記録および写真撮影を行い、アメリカザリガニは駆除、それ以外の生物は池に戻した。

2. 調査地

各調査地の概要を以下に示した。

(1) 南長崎はらっぱ公園

所在地：南長崎 6 丁目 1 番地 20 号 敷地面積：5,734 m²

南長崎はらっぱ公園は豊島プール（平成 12（2000）年に老朽化のため廃止）の跡地で地域住民参加のワークショップによる公園計画づくりが行われ、平成 22（2010）年 7 月にオープンした。ビオトープは地域住民による区民協働により同年 11 月に造られた。

ビオトープ全体は約 170 m²で池は約 40 m²である。池の水は井戸水が利用されており、定期的に地域の区民団体である「南長崎はらっぱ公園を育てる会」により補給されている。池の南東部にある島の北東側が最も深く、泥の表面から約 40cm の水深であった。柔らかい泥が積もっており、10cm ほど足が沈み込む状態であった。

公園全体としては名前のおり広い草地の広場が中心となっている。ビオトープ池に隣接して花壇が整備されている。公園の西側には「いのちの森植樹」が行われ、照葉樹が中心に植栽されている。



ビオトープ



ビオトープ脇の花壇



いのちの森



草地

図Ⅱ-2-1 調査地の写真（南長崎はらっぱ公園）

(2) 南池袋小学校

所在地：南池袋3丁目18番地12号

平成13(2001)年に旧高田小学校、旧雑司ヶ谷小学校、旧日出小学校が統合し、旧高田小学校を校舎として開校した。平成16(2004)年に千登世橋中学校跡地である現在の敷地に新校舎が建てられた。

ビオトープは昔からあったと思われる南向きの斜面林を中心とし、斜面下部に池が造られている。池の南側には畑がある。斜面上部の樹林の西側に花壇が造られ、樹林の東側は植栽地になっている。ビオトープの面積は花壇、斜面林、池、畑を合わせて約700㎡である。池は縦(南北方向)3.8m、横(東西方向)4.8mほどの大きさである。

ビオトープの樹林をコの字型に囲むように校舎が建てられている。学校の敷地の西側は法明寺の社寺林と接しており、南方約200m先には鬼子母神の社寺林、東方約300m先には雑司ヶ谷霊園があり、区内では比較的まとまった樹林のある地域である。

校舎の東側には草地があり、百葉箱が置かれている。

グラウンドの南東側から南側にかけては平成21(2009)年4月に、校舎の西側には平成30(2018)年7月に「学校の森」記念植樹が行われている。



ビオトープ全景



池



校舎東側の草地



校舎西側の植栽地

図Ⅱ-2-2 調査地の写真(南池袋小学校)

(3) 西巣鴨小学校

所在地：西巣鴨 1 丁目 27 番地 1 号

明治 43 (1910) 年 4 月に西巣鴨小学校の前身である時習尋常小学校分教場が現在の地にできた。現在の小学校名になったのは、昭和 22 (1947) 年である。

ビオトープは平成 25 (2013) 年に改修された。校舎とプールの間にある中庭にコンクリート池が造られ、水生植物はプランターに植栽して水に沈める形で植えられている。池の大きさは幅約 12m、奥行き約 1.4m である。池の対面にはプールに沿って樹木が植栽されている。

体育館の南西側に敷地境界に沿ってサツキなどの低木植栽があり、草本類が茂っている。

グラウンドを囲むように西側、南側、東側に敷地境界に沿って樹木が植栽されている。グラウンドの南西側には田と畑がある。

学校の周囲には小規模な緑地が点在しており、南南西約 200m 先に西巣鴨公園、北側約 200m 先に西巣鴨二丁目公園、東側 100m 先には東京大学豊島国際学生宿舎の植栽がある。



ビオトープ全景



体育館西側植栽地



グラウンド東側の植栽地



畑 (奥に水田もある)

図 II - 2 - 3 調査地の写真 (西巣鴨小学校)

(4) 仰高小学校

所在地：駒込5丁目1番地19号

仰高小学校は、明治9(1876)年に文京区本駒込2丁目の長源寺の中に開校した。その後、明治時代に巣鴨1丁目、2丁目に校舎が建てられた。第二次世界大戦で校舎は被災し、昭和22(1947)年に再建された。現在の場所に新校舎が建てられたのは昭和48(1973)年である。

ビオトープはグラウンドの東側の一角にある。水をポンプで循環させた池があり、その周りに樹木が植栽されている。クスノキの大木があり、昔からあった樹木を利用している。池の大きさは奥行1.5~2.5m、幅約7mのひょうたん型である。ポンプアップした水を池に流す幅0.6mほどの水路につながっている。

グラウンドに面した校舎の南西側には花壇があり、ヘチマやナス、トマトなどの野菜が栽培されていた。校舎の北東側には平成21(2009)年4月に、北西側には平成30(2018)年7月に「学校の森」記念植樹が行われている。

「学校の森」記念植樹が行われている校舎の北東側と北西側は染井霊園と接している。染井霊園は区内でも有数の大規模な緑地である。



ビオトープ全景



池



グラウンド沿いの花壇



北東側の「学校の森」記念植樹

図Ⅱ-2-4 調査地の写真(仰高小学校)

3. 調査期間

- ・ 植 物：春期調査 令和2年 5月26日、5月27日
秋期調査 令和2年 11月2日、11月4日
- ・ 昆 虫 類：夏期調査 令和2年 8月4日、8月7日
秋期調査 令和2年 9月15日、9月30日
- ・ 水生生物：秋期調査 令和2年 9月15日、9月30日
冬期調査 令和3年 2月24日、2月25日

※その他の小動物調査は植物、昆虫類、水生生物調査と並行して実施した。

4. 確認種の評価方法

国および都のレッドリスト記載種の抽出、外来種の抽出を行い、区内の動植物相を考察する一助とした。

(1) 国および都レッドリスト記載種

環境省が作成している各分類群のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物種のリスト 以下、国 RL とする）と、東京都が作成しているレッドリスト（以下、都 RL とする）に記載されている種の抽出を行った。表Ⅱ－4－1 に各カテゴリーの基本概念を示した。

表Ⅱ－4－1 国および都レッドデータブックのカテゴリーの基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めずで絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去の環境改変により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)
ランク外 (都RLのみ)	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し (都RLのみ)	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 (都RLのみ)	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った。

(2) 外来種

外来種とは、「もともとその地域にいなかったが、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のこと」をいう。

生物多様性基本法に基づき策定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」には、外来種による生態系等への影響は、我が国の生物多様性が直面する重大な危機の1つとして位置づけられている。

外来種のうち、特に注意が必要な種として、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、「外来生物法」とする)で指定された特定外来生物^{*1}および未判定外来生物^{*2}が挙げられる。また、環境省及び農林水産省が作成・公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(以下、「生態系被害防止外来種リスト」とする)に記載されている種(本リストは特定外来生物・未判定外来生物を含む)の抽出を行った。このリストにある特定外来生物・未判定外来生物以外は法的な規制がないものの、これらの分布状況を把握しておくことで、生態系への影響の広がり未然に防止するための一助となる。

表Ⅱ-4-2に各カテゴリーの概念を示した。

***1 特定外来生物**：外来生物(海外起源の外来種)であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれる。飼育、栽培、保管及び運搬、輸入が原則禁止されている。また、野外へ放つ、植える及びまくこと、譲渡し、引渡しなどをすることが禁止され、許可を受けて飼養等をする場合は個体識別等の措置を講じる義務がある。

***2 未判定外来生物**：特定外来生物とは別に、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物の中から指定される。輸入する場合は事前に主務大臣に対して届け出る必要がある。届出がされた場合は、主務大臣が判断し、影響を及ぼすおそれがある場合は特定外来生物に指定され、輸入等について規制される。影響を及ぼすおそれがないと主務大臣が判断した場合は、特に規制はかからない。

【参考文献等】

- ・東京都環境局自然環境部 編 (2013)：レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生動植物種(本土部)解説版, 東京都環境局自然環境部.
- ・環境省 web サイト：日本の外来種対策 外来生物法
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1law/index.html>
- ・環境省 web サイト：日本の外来種対策 生態系被害防止外来種リスト
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>
- ・国立環境研究所侵入生物データベース <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>
- ・日本生態学会 編 (2002)：外来種ハンドブック, 地人書館.

表Ⅱ-4-2 生態系被害防止外来種リストの各カテゴリーの概念

カテゴリー	概念
(1) 定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
(i) 侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
(ii) その他の定着予防外来種	侵入の情報はあがるが、定着は確認されていない種。
(2) 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。
(i) 緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
(ii) 重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
(iii) その他の総合対策外来種	総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種に該当しないもの。
(3) 適切な管理が必要な産業上 重要な外来種 (産業管理外来種)	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方：

(被害の深刻度に関する基準)

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

第Ⅲ章 動植物生態調査結果

1. 植物調査

(1) 調査結果概要

植物は変種^{※1}を含め 119 科 443 種 446 種類が確認された（表Ⅲ－1－1）。品種^{※2}は含めなかった。変種を含める理由は、生育環境の違いによる分布域の違いなどを把握できるためである。変種を含める場合は種数でなく、種類数という表記となる。今回の調査では、種が同じで異なる変種であるものはジャノヒゲとナガバジャノヒゲ、キャベツとブロッコリーであった。コクチナシは中国原産でクチナシの変種にあたる。よって、種類数で数えると種数より 3 つ増えることとなる。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 235 種 237 種類、南池袋小学校 197 種 198 種類、西巢鴨小学校 219 種 221 種類、仰高小学校 172 種 173 種類であった。

※1 変種：種の基準標本との形態的差異があり、地理的に分布の異なる場合変種とする。植物で用い、種名または亜種名の次に var. (varietas) と記す。

※2 品種：花の色の違いなどごく一部のみの違いがある個体を品種という。普通は独自の分布域をもたず、同じ種の他個体の中に混生していることもある f. (forma) と記す。

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(1/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西巣鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考
トクサ	1	スギナ	●		●			
	2	トクサ			●			植栽
カニクサ	3	カニクサ			●			
イノモトソウ	4	タチシノブ		●				
	5	イノモトソウ		●	●	●		
メシダ	6	イヌワラビ		●	●			
ヒメシダ	7	ミドリヒメワラビ		●				
	8	イヌケホシダ		●		●		
オシダ	9	ナガバヤブソテツ	●	●		●		
	10	ヤブソテツ		●				
	11	ベニシダ		●		●		
ウラボシ	12	ノキシノブ				●		
イチョウ	13	イチョウ	●	●	●	●		植栽
マツ	14	ヒマラヤスギ			●		○	植栽
	15	クロマツ			●			植栽
ヒノキ	16	モントレーイトスギ				●	○	植栽
	17	カイツカイブキ				●		植栽
	18	メタセコイア		●	●	●	○	植栽
イチイ	19	カヤ		●	●			
マキ	20	イヌマキ		●				植栽
スイレン	21	スイレン属の一種	●				総合-重点	植栽 園芸 ヒメスイレン
マツバサ	22	シキミ	●					植栽
	23	サネカズラ		●		●		植栽
センリョウ	24	センリョウ	●		●			植栽
ドクダミ	25	ドクダミ	●	●	●	●		
	26	ハンゲショウ	●					植栽 都RL(区部):CR
モクレン	27	ハクモクレン			●			植栽
	28	カラタネオガタマ			●			植栽
	29	タイサンボク			●			植栽
	30	コブシ	●	●		●		植栽
	31	ホオノキ				●		植栽
クスノキ	32	ロウバイ			●			植栽
	33	クスノキ	●	●		●		植栽
	34	ヤブニツケイ		●				植栽
	35	ゲッケイジュ				●		植栽
	36	クロモジ				●		植栽
	37	タブノキ	●	●				植栽
	38	シロダモ	●	●		●		植栽
ショウブ	39	セキショウ		●				植栽
サトイモ	40	ウラシマソウ		●				
	41	サトイモ		●				植栽
	42	アオウキクサ			●	●		
	43	ウキクサ				●		
	オモダカ	44	ナガバオモダカ			●		総合-重点
トチカガミ	45	オオカナダモ			●	●	総合-重点	植栽
ヤマノイモ	46	ヤマノイモ				●		
シオデ	47	サルトリイバラ				●		植栽
ユリ	48	ユリ属の一種				●		植栽
	49	ホトギス属の一種		●				植栽
ラン	50	シラン	●		●			植栽 国RL:NT
アヤメ	51	ヒメヒオウギ			●		○	
	52	ヒメヒオウギズイセン	●				総合-その他	
	53	シャガ	●	●				植栽
	54	キショウブ	●				総合-重点	植栽
	-	アヤメ属の一種			●			植栽
ススキノキ	55	キダチアロエ			●		○	植栽
ヒガンバナ	56	ムラサキクンシラン属の一種	●		●		○	植栽
	57	ノビル			●			
	58	ウケザクンシラン		●			○	植栽
	59	ヒガンバナ	●	●	●	●		植栽
	60	スイセン	●	●	●	●		植栽
	61	ハタケニラ	●	●	●		○	
	62	タマスダレ	●		●		○	植栽
	63	ハラン			●	●		植栽
キジカクシ	64	コバギボウシ	●	●	●			植栽
	65	ヤブラン		●	●	●		植栽
	66	ジャノヒゲ		●	●	●		植栽
	67	ナガバジャノヒゲ	●	●	●	●		植栽
	68	キチジョウソウ		●				植栽
	69	オモト			●	●		植栽
ヤシ	70	シュロ	●	●	●	●	国内- 総合-その他	一部植栽
ツユクサ	71	ツユクサ		●	●	●		
	72	ヤブミョウガ		●		●		
	73	ノハカタカラクサ	●	●		●	総合-重点	
	74	ムラサキツユクサ			●		○	
	75	ムラサキオオツユクサ			●		○	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(2/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西臈鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考	
ミズアオイ	76	ホテイアオイ	●	●		●	総合-重点	植栽	
	77	コナギ			●			(植栽)	
カンナ	78	ハナカンナ	●				○	植栽 カンナ	
ガマ	79	ミクリ	●					植栽 国RL:NT 都RL(区部):NT	
	80	ヒメガマ	●					植栽	
	-	ガマ属の一種			●			植栽	
イグサ	81	イグサ				●		植栽	
	82	クサイ	●						
カヤツリグサ	83	マスクサ	●		●	●			
	84	ナキリスゲ	●		●	●		植栽	
	85	シュロガヤツリ	●				総合-重点	鉢植えの投棄 処分済み	
	86	チャガヤツリ	●						
	87	タマガヤツリ			●			(植栽)	
	88	コゴメガヤツリ			●				
	89	カヤツリグサ		●	●				
	90	ヒデリコ			●				
	91	ヒメクグ	●		●				
	92	イヌホタルイ		●				植栽	
	93	カンガレイ				●		植栽	
	94	フトイ	●		●	●		植栽	
	イネ	95	ヒメコバンソウ	●				○	
		96	イヌムギ	●				○	
97		ジュズダマ	●		●			植栽	
98		メヒシバ	●	●	●	●			
99		コメヒシバ	●	●	●	●			
100		アキメヒシバ	●						
101		イヌビエ			●				
102		オヒシバ	●	●	●				
103		アオカモジグサ	●	●					
104		カモジグサ	●						
105		コスズメガヤ			●			○	
106		チガヤ	●	●					
107		サヤヌカグサ				●		(植栽)	
108		ネズミムギ		●			産業		
109		ホソムギ		●			産業		
110		ヒメアシボソ	●	●					
111		オギ	●						
112		ススキ	●	●	●	●		植栽 南長崎はらっぱ公園:品種 タカノハススキ	
113		コネズミガヤ	●					○	
114		チヂミザサ		●		●		ケチヂミザサ	
115		イネ			●			植栽	
116		ヨシ	●						
117		マダケ			●				
118		アズマネザサ	●	●	●	●			
119		スズメノカタビラ	●	●	●	●			
120		ナガハグサ		●		●		○	
121		オオスズメノカタビラ	●					○	
122		ヒエガエリ	●		●				
123		クマザサ				●		植栽	
124		アキノエノコログサ	●						
125	エノコログサ	●	●	●	●				
126	コウライシバ	●	●	●			植栽		
ケン	127	ムラサキケマン		●		●			
	128	タケニグサ	●						
	129	ナガミヒナゲシ	●	●	●	●	○		
アケビ	130	ミツバアケビ	●		●	●		植栽	
	131	ムベ	●			●		植栽	
メギ	132	ナンテン	●	●	●	●		植栽	
キンボウゲ	133	オオヒエンソウ属の一種	●				○	植栽 デルフィニウム	
スズカケノキ	134	モミジバズカケノキ	●				○	植栽	
マンサク	135	アカバナトキワマンサク		●		●	○	植栽 ベニバナトキワマンサク	
ユズリハ	136	ユズリハ	●			●		植栽	
	137	ヒメユズリハ		●		●		植栽	
ベンケイソウ	138	フチベニベンケイ			●		○	植栽	
	139	ツルマンネングサ				●	○	植栽	
	140	ヨコハママンネングサ	●				○		
ブドウ	141	ヤブガラシ	●	●	●	●			
	142	ツタ	●	●	●	●			
	143	エビヅル				●			
マメ	144	ネムノキ	●			●		植栽	
	145	ヤブマメ				●			
	146	ハナズオウ		●				植栽	
	147	ネコハギ			●			植栽	
	148	インゲンマメ		●		●		植栽	
	149	クズ		●					
150	エンジュ	●	●				植栽		

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(3/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西巢鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考
マメ	151	コメツブツメクサ		●			○	
	152	シロツメクサ	●	●			○	一部植栽
	153	ヤハズエンドウ	●	●	●	●		
	154	アズキ		●				植栽
	155	フジ			●	●		植栽
バラ	156	キンミズヒキ				●		植栽
	157	ボケ	●		●			植栽
	158	ビワ	●	●	●	●	産業	植栽
	159	ヤマブキ	●	●	●	●		植栽
	160	イヌリンゴ			●			植栽
	161	リンゴ属の一種		●				植栽
	162	カナメモチ	●	●		●		植栽
	163	レッドロビン				●	○	植栽
	164	ヘビイチゴ	●	●	●	●		
	165	セイヨウミザクラ			●		○	植栽
	166	ヤマザクラ	●					植栽
	167	ウメ	●	●	●	●		植栽
	168	ソメイヨシノ	●	●	●	●		植栽
	169	カザンデマリ	●			●	総合-その他	植栽
	-	トキワサンザシ属の一種			●		総合-その他	植栽
	170	シャリンバイ	●	●	●	●		植栽
	171	モッコウバラ	●				○	植栽
	172	テリハノイバラ				●		
173	ノイバラ			●	●			
174	バラ属の一種			●		○	植栽	
175	ナナカマド	●					植栽	
176	コデマリ			●			植栽	
177	シモツケ	●	●	●			植栽	
178	ユキヤナギ	●					植栽	
グミ	179	ナツグミ		●	●		植栽	
ニレ	180	ケヤキ	●	●		●		
アサ	181	ムクノキ	●	●		●		
	182	エノキ	●	●	●	●		
クワ	183	ヒメコウゾ				●		
	184	カジノキ				●		
	185	クワクサ	●	●	●	●		
	186	ヤマグワ	●		●	●		
イラクサ	187	クサコアカソ				●	(植栽)	
	188	アオミズ				●		
ブナ	189	クリ			●		植栽	
	190	スダジイ	●	●	●	●	植栽	
	191	マテバシイ	●		●	●	植栽	
	192	アカガシ	●				植栽	
	193	クヌギ	●	●			植栽	
	194	ミズナラ				●	植栽	
	195	アラカシ	●	●		●	植栽	
	196	シラカシ	●	●		●	植栽	
	197	ウラジロガシ	●				植栽	
	198	コナラ				●	植栽	
ヤマモモ	199	ヤマモモ	●	●		●	植栽	
クルミ	200	オニグルミ	●				植栽	
カバノキ	201	シラカンバ		●			植栽	
ウリ	202	スイカ			●		植栽	
	203	メロン			●		植栽	
	204	ヘチマ		●	●	●	植栽	
	205	ニガウリ			●		植栽	
	206	カラスウリ		●				
	207	キカラスウリ		●				
	208	シュウカイドウ属の一種		●	●		○	植栽 ベゴニア
ニシキギ	209	マサキ	●	●		●	植栽	
カタバミ	210	イモカタバミ	●		●		○	
	211	ハナカタバミ			●		○	植栽
	212	カタバミ	●	●	●	●		
	213	ムラサキカタバミ	●	●	●	●	○	
	214	オッタチカタバミ	●	●	●	●	○	
	215	エノキグサ	●		●			
トウダイグサ	216	コシキソウ	●		●		○	
	217	アカメガシワ	●	●	●	●		
	218	コミカンソウ	●					
ミカンソウ	219	ナガエコミカンソウ		●	●		○	
	220	タチツボスミレ		●				
スミレ	221	コスミレ			●			
	222	マルバースミレ		●				
	223	アメリカスミレサイシン	●		●	●	○	
	224	パンジー	●	●	●		○	植栽
	225	ヒペリクム 'ヒドコート'			●		○	植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(4/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西巣鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考
オトギリソウ	226	ビオウヤナギ	●				○	植栽
フウロソウ	227	アメリカフウロ	●	●	●		○	
	228	ゲンノショウコ	●					植栽
ミソハギ	229	ホソバヒメミソハギ			●		○	
	230	メキシコハナヤナギ	●				○	植栽
	231	サルズベリ	●		●			植栽
	232	ザクロ	●					植栽
アカバナ	233	メマツヨイグサ			●		○	
	234	ユウゲショウ	●		●		○	
	235	ヒルザキツキミソウ		●		●	○	
ミツバウツギ	236	ミツバウツギ				●		植栽
ムクロジ	237	トウカエデ	●				○	植栽
	238	イロハモミジ	●	●	●	●		植栽
ミカン	239	ユズ		●				植栽
	240	ナツミカン		●	●	●		植栽
	241	ウンシュウミカン		●				植栽
	-	ミカン属の一種	●					植栽
	242	カラスザンショウ				●		
	243	サンショウ	●			●		
ニガキ	244	ニワウルシ	●				総合-重点	シンジュ
センダン	245	センダン	●	●	●			一部植栽
アオイ	246	オクラ		●				植栽
	247	タチアオイ			●		○	植栽
	248	アオギリ		●	●			一部植栽
	249	フヨウ	●				総合-その他	
	250	ムクゲ	●					植栽
	251	ミナミフランスアオイ	●				○	
ジンチョウゲ	252	ジンチョウゲ	●	●	●			植栽
アブラナ	253	セイヨウアブラナ	●		●		○	植栽
	254	キャベツ			●	●		植栽
	255	ブロッコリー			●			植栽
	256	ハクサイ		●				植栽
	257	ナスナ	●	●				
	258	タネツケバナ			●			
	-	タネツケバナ属の一種	●					
	259	トキワマガリバナ	●				○	植栽
	260	カラクサナズナ	●				○	
	261	アラセイトウ			●			植栽
	262	ショカツサイ			●		○	
	263	ダイコン		●	●			植栽
	264	イヌガラシ	●		●			
タデ	265	ミュウレンベッキア属の一種	●				○	植栽 ワイヤープランツ
	266	ミズヒキ	●	●				
	267	イヌタデ	●	●	●	●		
	268	ナガバギシギシ	●		●		総合-その他	
ナデシコ	269	ハナフスマ	●				○	植栽 アレナリア
	270	ノミノツヅリ			●			
	271	オランダミミナグサ	●	●	●	●	○	
	272	オランダナデシコ	●				○	植栽 カーネーション
	273	ツメクサ	●					
	274	ハマツメクサ	●	●	●	●		
	275	スイセンノウ	●				○	植栽 フランネルソウ
	276	コハコベ	●	●	●	●	○	
	277	ミドリハコベ		●	●			
ヒユ	278	ヒナタイノコツチ	●	●	●	●		
	279	ホソアオゲイトウ			●		○	
	280	イソホウキギ	●					植栽 ホウキギ
	281	ケイトウ	●					植栽
	282	シロザ	●	●	●	●		
	283	ゴウシュウアリタソウ				●	○	
ハマミズナ	284	ヘラマツバギク	●				○	植栽 リビングストーンデージー
ヤマゴボウ	285	ヨウシュヤマゴボウ	●	●	●	●	○	
オシロイバナ	286	オシロイバナ		●	●		○	
スベリヒユ	287	スベリヒユ				●		
	288	ハナスベリヒユ	●				○	植栽
	289	ハゼラン		●			○	
ミズキ	290	ミズキ	●			●		植栽
	291	ヤマボウシ	●	●				植栽
	292	サンシュユ	●					植栽
	293	ハナミズキ			●		○	植栽
アジサイ	294	ヒメウツギ	●					植栽
	295	アジサイ	●	●	●	●		植栽 ガクアジサイを含む
	296	バイカウツギ	●					植栽
ツリフネソウ	297	ホウセンカ		●				植栽
	298	アフリカホウセンカ				●	総合-重点	植栽
ハナシノブ	299	シバザクラ	●				○	植栽
サカキ	300	サカキ				●		植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(5/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西巢鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考
サカキ	301	ヒサカキ	●	●	●	●		植栽
	302	モッコク	●	●	●	●		植栽
カキノキ	303	カキノキ		●		●		植栽
サクラソウ	304	マンリョウ	●	●	●			一部植栽
	305	ヤブコウジ				●		植栽
	306	オカトラノオ	●					植栽
	307	コナスビ		●	●	●		
	308	サクラソウ属の一種	●				○	植栽
ツバキ	309	ヤブツバキ			●	●		植栽
	310	サザンカ		●	●	●		植栽
	311	チャノキ		●				
マタタビ	312	キウイフルーツ			●		産業	植栽
ツツジ	313	ドウダンツツジ		●	●	●		植栽
	314	アセビ	●			●		植栽
	315	サツキ	●	●	●			植栽
	316	クルメツツジ			●			植栽
	317	ヒラドツツジ		●	●	●		植栽 品種オオムラサキ
アオキ	318	アオキ	●	●		●		植栽
アカネ	319	クチナシ	●		●	●		植栽
	320	コクチナシ	●		●		○	植栽
	321	ヒナソウ	●				○	植栽 ヒナクサ
	322	ヘクソカズラ	●	●	●	●		
	323	クササンタンカ	●				○	植栽 ペンタス
	324	ハクチョウゲ			●			植栽 国RL:EN
リンドウ	325	コマチリンドウ	●				○	植栽
キョウチクトウ	326	ニチニチソウ			●		○	植栽
	327	テイカカズラ	●			●		植栽
ムラサキ	328	キュウリグサ			●			
ヒルガオ	329	コヒルガオ	●	●	●	●		
	330	アオイゴケ属の一種	●				○	
	331	サツマイモ		●	●	●		植栽
	332	アメリカアサガオ		●				総合-重点 植栽
	333	マメアサガオ		●				総合-重点 植栽
	334	アサガオ	●	●	●			総合-重点 植栽
ナス	335	ニオイバンマツリ	●				○	植栽
	336	ツクバネアサガオ		●		●	○	植栽
	337	トマト		●	●			植栽
	338	ヒヨドリジョウゴ		●	●	●		
	339	ナス		●	●	●		植栽
	340	イヌホオズキ	●	●	●	●		
	341	タマサンゴ	●	●	●		○	
	342	ジャガイモ			●	●		植栽
	343	シナレンギョウ		●				植栽
	344	シマトネリコ	●					国内外来種
345	ハゴロモジャスミン	●	●	●		○	植栽	
346	ネズミモチ	●	●				一部植栽	
347	トウネズミモチ	●	●	●	●		総合-重点	
348	キンモクセイ	●		●	●		植栽	
349	ヒイラギモクセイ			●			植栽	
オオバコ	350	ヒメキンギョソウ	●				○	植栽
	351	オオバコ	●	●	●			
	352	ズーテラ ディフス	●				○	植栽 バコパ
	353	オオカワヂシャ	●					総合-緊急 特定外来
	354	タチイヌノフグリ	●	●	●		○	
	355	ムシクサ	●		●			
	356	オオイヌノフグリ		●	●		○	
	357	カワヂシャ			●	●		(植栽) 国RL:NT
ゴマノハグサ	358	フサフジウツギ					総合-重点	植栽
アゼナ	359	アメリカアゼナ			●		○	
シソ	360	セイヨウキランソウ	●				○	アジュガ
	361	コムラサキ	●	●	●			植栽
	362	ムラサキシキブ	●	●				植栽
	363	ボタンクサギ			●		○	
	364	クサギ				●		植栽
	365	トウバナ		●		●		
	366	カキドオシ	●			●		
	367	ホトケノザ	●	●	●	●		
	368	ラベンダー ラヴァンディン系	●				○	植栽
	369	コショウハッカ	●				○	植栽 ブラックペパーミント
	370	ハッカ属の一種①		●			○	植栽
	371	ハッカ属の一種②	●				○	
	372	メボウキ		●			○	植栽 バジル
	373	シソ		●	●			植栽
	374	ケショウサルビア	●				○	植栽 ブルーサルビア
375	ガラニチカセージ	●				○	植栽 メドーセージ	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(6/6)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	南池袋 小学校	西巣鴨 小学校	仰高 小学校	外来種	備考
シソ	376	ヒゴロモソウ	●				○	植栽
ハエドクソウ	377	トキワハゼ	●	●	●	●		
キツネノマゴ	378	キツネノマゴ		●				
ノウゼンカズラ	379	ノウゼンカズラ		●				植栽
クマツヅラ	380	シチヘンゲ			●		総合-重点	植栽 ランタナ
	381	クマツヅラ属の一種	●					植栽 バーベナ
モチノキ	382	イヌツゲ			●			植栽
	383	モチノキ		●	●	●		植栽
	384	クロガネモチ				●		植栽
キキョウ	385	カンパヌラ ポスカルスキアナ	●				○	植栽 カンパニユラ ポンシャルスキアナ
	386	ルリミゾカクシ	●				○	植栽
	387	キキョウソウ			●		○	
ミツガシワ	388	ミツガシワ	●					植栽 都RL(区部):OR
	389	アサザ			●			植栽 国RL:NT 都RL(区部):VU
キク	390	セイヨウノコギリソウ	●				○	
	391	マルバフジバカマ	●				総合-その他	
	392	ムラサキカッコウアザミ	●				総合-その他	植栽 一部逸出
	393	モクシュンギク	●		●		○	植栽 マーガレット
	394	ヨモギ	●	●	●	●		
	395	ノコギリク	●					植栽
	396	アメリカセンダングサ				●	総合-その他	
	397	コセンダングサ		●	●	●	○	
	398	ヒメコスモス属の一種	●					植栽 プラキカム
	399	キク属の一種	●				総合-その他	植栽
	400	アメリカオニアザミ			●		総合-その他	
	401	コスモス	●				○	植栽
	402	キバナコスモス				●	○	植栽
	403	マメカミツレ			●		○	
	404	アメリカタカサブロウ		●	●		○	
	405	ダンドボロギク				●	○	
	406	ヒメジョオン	●	●	●	●	総合-その他	
	407	アレチノギク			●		○	
	408	ヒメムカシヨモギ	●	●	●	●	○	
	409	ハルジオン	●	●	●		○	
	410	オオアレチノギク		●	●		○	
	411	ユリオプスデージー	●		●		○	植栽
	412	ツワブキ		●				植栽
	413	ハキダメギク		●	●		○	
	414	タチチチコグサ		●	●		○	
	415	ウラジロチチコグサ	●	●	●	●	○	
	416	チチコグサモドキ		●	●	●	○	
	417	クンショウギク属の一種	●				○	植栽 ガザニア
	418	ヒマワリ				●	○	植栽
	419	シロタエギク		●			○	植栽
	420	ノースポールギク	●	●	●	●	○	植栽
	421	フキ		●		●		
	422	アイセイタカハハコグサ			●			
	423	セイタカハハコグサ			●		○	
	424	ロダンテムム アフリカンアイズ			●		○	植栽 ローダンセマム
	425	ノボロギク		●			○	
	426	セイタカアワダチソウ	●	●	●		総合-重点	
	427	ノゲシ	●	●	●	●		
	428	コウオウソウ属の一種	●			●	○	植栽 マリーゴールド
	429	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	総合-重点	
	430	オニタビラコ		●	●	●		
	431	ヒヤクニチソウ属の一種	●		●		○	植栽 ジニア
レンブクソウ	432	ガマズミ	●					植栽
	433	サンゴジュ	●	●	●	●		植栽
スイカズラ	434	ハナゾノツクバネウツギ	●	●	●		○	植栽
	435	ツキヌキニンドウ	●				○	植栽
トベラ	436	トベラ	●	●				植栽
ウコギ	437	カクレミノ	●	●		●		植栽
	438	ヤツデ	●	●		●		植栽
	439	カナリーキツタ			●		○	植栽
	440	セイヨウキツタ			●		○	植栽
	441	ヤドリフカノキ			●		○	植栽
	442	チドメグサ		●		●		
セリ	443	ミツバ				●		
	444	ニンジン		●				植栽
	445	セリ	●		●	●		植栽
	446	オヤブジラミ			●			
119	443種446種類	235種 237種類	197種 198種類	219種 221種類	172種 173種類	164		

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧
 外来種は概ね江戸時代末期以降に日本に入ってきたものを表記した。野菜などの作物は含めていない。
 (植栽):客土中に入っていて意図的な植栽でないと思われるもの。区内に少ない在来種のみ表記した。

(2) レッドリスト記載種

植栽種を除く国 RL および都 RL (区部) 記載種の確認は無かった。

植栽種であるが、参考までに国 RL および都 RL (区部) 記載種を表Ⅲ-1-2、図Ⅲ-1-1に示した。

区内に新たにビオトープとして動植物の生息・生育できる環境を創出しているため、外から持ってきたものがRL記載種となっている。今後これらの植物に適した環境を維持していくことによって、鳥類、両生類、昆虫類などの動物が誘致できるため、植栽であってもビオトープの目的に合致している。本調査により植物の由来を記録しておくことで区内の残された本来の自生種と区別した上で区内の環境を評価していくことが重要である。

表Ⅲ-1-2 確認されたレッドリスト記載種一覧(植物・植栽種)

科名	種名	南長崎 はらっぱ公園	西巣鴨 小学校	国RL	都RL (区部)	備考
ドクダミ	ハンゲシヨウ	●			CR	植栽
ラン	シラン	●	●	NT		植栽
ガマ	ミクリ	●		NT	NT	植栽
アカネ	ハクチョウゲ		●	EN		植栽
オオバコ	カワヂシャ		●	NT		(植栽)
ミツガシワ	ミツガシワ	●			CR	植栽
	アサザ		●	NT	VU	植栽
6	7	4	4	5	4	

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧
(植栽):他の植栽種とともに持ち込まれ、意図的な植栽でないと思われるもの。



ハンゲシヨウ
R2年5月26日 南長崎はらっぱ公園



カワヂシヤ
R2年5月27日 西巣鴨小学校



ミツガシワ
R2年5月26日 南長崎はらっぱ公園



アサザ
R2年5月27日 西巣鴨小学校

図Ⅲ-1-1 主なレッドリスト記載種の写真（植物・植栽種）

(3) 外来種

外来種は古い時代に日本に入ってきたものは含めず、海外との物流が盛んになった概ね江戸時代末期以降に日本に入ってきたと考えられているものについて集計を行った。なお、野菜などの作物については外来種に含めなかった。前述の基準で集計したところ、164種が確認された（表Ⅲ－1－1）。

そのうち、生態系被害防止外来種リスト記載種は南長崎はらっぱ公園で21種、南池袋小学校で13種、西巢鴨小学校で15種、仰高小学校で11種を確認した（表Ⅲ－1－3）。

表Ⅲ－1－3 確認された生態系被害防止外来種リスト記載種一覧（植物）

生態系被害防止外来種リストカテゴリ	種名	南長崎はらっぱ公園	南池袋小学校	西巢鴨小学校	仰高小学校	備考	
総合対策外来種	緊急対策外来種	オオカワヂシャ	●			特定外来生物	
	重点対策外来種	スイレン属の一種	●				植栽 園芸種ヒメスイレン
		ナガバオモダカ			●		植栽
		オオカナダモ			●	●	植栽
		キシウブ	●				植栽
		ノハカタカラクサ	●	●		●	トキワツユクサ
		ホテイアオイ	●	●		●	植栽
		シュロガヤツリ	●				鉢植えの投棄 処分済み
		ニワウルシ	●				シンジュ
		アフリカホウセンカ				●	植栽 インパチエンス
		アメリカアサガオ		●			植栽
		マメアサガオ		●			
		アサガオ	●	●	●		植栽
		トウネズミモチ	●	●	●	●	
		フサフジウツギ			●		植栽
		シチヘンゲ			●		植栽 ランタナ
		セイタカアワダチソウ	●	●	●		
		セイヨウタンポポ	●	●	●	●	
		その他の総合対策外来種	ヒメヒオウギズイセン	●			
	カザンデマリ		●			●	植栽 ヒマラヤトキワサンザシ
	トキワサンザシ属の一種				●		植栽
	フヨウ		●				
	ナガバギギシ		●		●		
	マルバフジバカマ		●				
	ムラサキカッコウアザミ		●				植栽 一部逸出
	アメリカセンダングサ					●	
	キク属の一種		●				植栽
	アメリカオニアザミ				●		
	ヒメジョオン	●	●	●	●		
	その他の総合対策外来種 国内由来	シュロ	●	●	●	●	一部植栽
	産業管理外来種	ネズミムギ		●			
		ホソムギ		●			
		ビワ	●	●	●	●	植栽
キウイフルーツ				●		植栽	
		21	13	15	11		

以下に各カテゴリで目立つ植物について生育状況を記述した。

1) 総合対策外来種 緊急対策外来種

南長崎はらっぱ公園のビオトープの水辺とビオトープの北西側に隣接した花壇で特定外来生物のオオカワヂシャが確認された。確認後は抜き取り、種子が落ちないように廃棄処分した。昨年度も確認後抜き取っているが、オオカワヂシャが見られる春に毎年確認して増えないように除去する必要がある。

2) 総合対策外来種 重点対策外来種

まず、植栽されているものについて述べる。園芸スイレン（流通名ヒメスイレン）は南長崎はらっぱ公園の池に植栽されている。広がりやすいため、水面を覆いつくさないように適度に間引きするなどの管理が必要である。ナガバオモダカ、オオカナダモ、ホテイアオイは水辺のあるビオトープによく植栽される種である。水生生物の産卵場や隠れ場として機能し、ナガバオモダカはトンボが羽化する際に利用することができる。

キショウブは南長崎はらっぱ公園の池に造られている島にのみ生育しているため、それ以外のところに広がらないように管理すれば問題はないと考えられる。

アフリカハウセンカ（インパチェンス）は仰高小学校のグラウンド脇に置かれたプランターに植栽されていた。

フサフジウツギとシチヘンゲは西巢鴨小学校のビオトープ池周辺に植栽されていた。吸蜜に昆虫が多く訪れるため、昆虫を誘致することができる。

外来ノアサガオ類に該当するものとして、アメリカアサガオ、アサガオ、マメアサガオが確認されている。うち植栽のものは、アメリカアサガオとアサガオである。アメリカアサガオは南池袋小学校に植栽されていたが、一部ビオトープの樹木に絡みついていた。アメリカアサガオとアサガオは植栽されたものが逸出して広がると駆除に手がかかるため、広がらないように気を付ける必要がある。

上記のいずれの種も植栽地内のみで管理し、周囲に広がらないようにすれば、生きものを誘致したり、産卵場や隠れ場として機能させることができる。

次に植栽でないものについて述べる。

ノハカタカラクサ（トキワツユクサ）は南長崎はらっぱ公園のビオトープ、南池袋小学校の校舎西側の花壇と校舎東側の百葉箱のある草地、仰高小学校の校舎の北西側の一角に生育していた。南池袋小学校では既にマット状に広範囲に広がっていた。常緑でマット状に広がるため、他の植物の生育場所を奪ってしまう種である。見つけたらすぐに除去したい植物である。

シュロガヤツリは南長崎はらっぱ公園の池の中に鉢植えが投棄されていた。南長崎原っぱ公園を育てる会の方が管理作業時に処分していた。

ニワウルシ（シンジュ）は南長崎はらっぱ公園に生育しており、昨年度と同じ場所で確認した。根元から伐採されたものもあったが、伐根されていないため、新たに枝葉が出ていた。

マメアサガオは南池袋小学校のグラウンド南側のフェンスに絡みつき、高い位置まで大きく広がっていた。今後は小さいうちに除草することが望ましい。

トウネズミモチは全調査地で確認された。果実を食べた鳥が種子の入った糞を落とすことで広がっている。木本であるため、大きくなると伐根しにくくなる。見つけたら小さいうちに除去することが望ましい植物である。

セイタカアワダチソウは仰高小学校以外の3箇所で確認された。いずれの調査地で

も個体数は少なかった。多年草であり、刈り取っても根が生きていれば再び伸びてくるため、抜き取ることが望ましい。

セイヨウタンポポは全調査地で確認された。他の植物を被圧するほど生育しておらず、在来種のタンポポも見つかっていないため、積極的な駆除は特に必要ないと思われる。

3) 総合対策外来種 その他の総合対策外来種

まず、植栽されているものについて述べる。

カザンデマリ（ヒマラヤトキワサンザシ）は南長崎はらっぱ公園のビオトープと仰高小学校南側の門からグラウンドに続く通路沿いに植栽されていた。周囲への逸出は見られなかった。

ムラサキカッコウアザミは南長崎はらっぱ公園の花壇に植栽され、ビオトープには逸出していた。ビオトープでは毎年確認されている。

キク属の一種は南長崎はらっぱ公園の花壇に植栽されていた。

次に植栽でないものについて述べる。

ヒメヒオウギズイセンは南長崎はらっぱ公園の南西側の目白通り側の入口付近の花壇の縁石周辺に生育していた。開花時期でないと見つけにくいだが、アメリカザリガニ駆除の際の来園時（6月23日）に確認された。

フヨウは南長崎はらっぱ公園のビオトープで確認された。

ナガバギシギシは南長崎はらっぱ公園と西巢鴨小学校で確認された。個体数は少なかった。

マルバフジバカマは平成29～30年度の南長崎はらっぱ公園のビオトープの植物概況調査では記録されていない。概況調査のため、目立つ植物を中心に記録した影響も考えられるが、昨年度以降、ビオトープの境界のフェンス周辺や公園内の植栽地に点在しており、急速に増加した印象がある。

アメリカセンダングサは仰高小学校ビオトープ池で確認された。水辺に広がると駆除が大変な植物であるが、個体数は少なく、春期調査のみでの確認だった。

アメリカオニアザミは西巢鴨小学校のビオトープ手前の草地で確認された。ロゼット状の小さな個体で開花結実はしていなかった。

ヒメジョオンは全調査地で確認されたが、定期的に草刈りをすれば、はびこって困ることは無いと考えられる。

4) 総合対策外来種 その他の総合対策外来種 国内由来

シュロは全調査地で確認された。

南長崎はらっぱ公園では、いのちの森に鳥類の種子散布起源の実生が見られた。

南池袋小学校では、ビオトープの樹林内に高木があり、結実していた。樹林内には鳥類の種子散布起源の実生も見られた。

西巢鴨小学校では、中庭からグラウンドに続く通路の一角に高木があった。

仰高小学校では、西側のフェンス沿いの一角に高木があった。

高木が結実してしまうと、鳥類が食べて糞を落とすことにより、種子が遠くまで運ばれてしまうため、分布を拡大させないために伐採することが望ましい。

5) 産業管理外来種

ドクムギ属のネズミムギ、ホソムギは南池袋小学校に生育していたが、個体数は少

なかった。

ビワは全調査地で確認された。キウイフルーツは西巣鴨小学校に植栽されていた。ビワ、キウイフルーツは鳥に果実が食べられることにより種子が遠くまで散布される。敷地内では周囲に実生や幼木を見つけた場合は抜き取ることが望ましい。

●緊急対策外来種(特定外来生物)



オオカワヂシャ
(R2年5月26日 南長崎はらっぱ公園)

●総合対策外来種 重点対策外来種



オオカナダモ
(R2年5月27日 西巣鴨小学校)



ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)
(R2年5月26日 南池袋小学校)



ホテアオイ
(R2年11月2日 仰高小学校)



ニワウルシ(シンジュ)
(R2年11月4日 南長崎はらっぱ公園)



マメアサガオ
(R2年9月30日 南池袋小学校)



シチヘンゲ(ランタナ)
(R2年5月27日 西巣鴨小学校)

●総合対策外来種 その他の総合対策外来種



マルバフジバカマ
(R2年11月4日 南長崎はらっぱ公園)



アメリカセンダングサ
(R2年5月27日 仰高小学校)

●産業管理外来種



ホソムギ
(R2年5月26日 南池袋小学校)



ビワ
(R2年5月26日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-1-2 主な生態系被害防止外来種リスト記載種(植物)(2/2)

生態系被害防止外来種リスト記載種以外に目立った外来種について以下に示す。

ハタケニラが南長崎はらっぱ公園の一角、南池袋小学校のビオトープの斜面林上部周辺の花壇や植栽地、西巣鴨小学校のビオトープ池に面した草地などに生育していた。特に南池袋小学校に多く生育していた。

アメリカスミレサイシンが南長崎はらっぱ公園のビオトープ、西巣鴨小学校のビオトープ池に面した草地、仰高小学校の染井霊園に面した敷地の北西側に生育していた。在来種のスミレ類との競合が懸念される種であるが、在来種のタチツボスミレが多く生育する南池袋小学校には生育していなかった。

セイヨウキランソウ（アジュガ）は、昨年度も南長崎はらっぱ公園で確認しているが、今回の調査時には紫色を帯びたロゼット葉が池に沿って多数生育し、分布を広げていた。

アメリカタカサブロウが、南池袋小学校の池の護岸用の擬木の隙間に生育していた。同種は西巣鴨小学校のビオトープ池に面した草地にも多数生育していた。

カラクサナズナは昨年度の春期調査時に南長崎はらっぱ公園の草地で所々に群落を作っており、分布の拡大が懸念されたが、今年度は分布が縮小し、ビオトープの南西側の花壇周辺などに少し見られた。



ハタケニラ
(R2年5月26日 南池袋小学校)



アメリカスミレサイシン
(R2年11月2日 仰高小学校)



セイヨウキランソウ(アジュガ)
(R2年11月4日 南長崎はらっぱ公園)



アメリカタカサブロウ
(R2年11月2日 西巣鴨小学校)

図Ⅲ-1-3 その他の外来種

(4) 各調査地の植物確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ

池が造成され周りに木本が植栽されたビオトープである。池の周囲はヨシが優占し、池の水中にヒメガマ、ヨシ、フトイ、スイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）が生育していた。

池に造られた小島には、ヨシ、キショウブ等が生育していた。

池の北西側の水深の浅い部分にセリ、フトイなどが生育し、池の南東側の水際にミツガシワも少し生育していた。

都 RL（区部）記載種はハンゲショウ、シラン、ミクリ、ミツガシワの 4 種であるが、いずれも植栽種である。ハンゲショウとミツガシワの写真を図Ⅲ-1-1 に示した。

池の上流部の浅瀬に緊急対策外来種で特定外来生物のオオカワヂシャが生育していた（図Ⅲ-1-2）。平成 29 年からこのビオトープの植物調査を行っているが、平成 31（令和元）年度が初確認であった。種子が土壌中で休眠していたと考えられる。調査後に抜き取って種子が落ちないように廃棄をしたが、今後も広がらないように管理することが望ましい。

池にはホテイアオイ（図Ⅲ-1-2）が新たに植栽されていたが、アメリカザリガニによる食害は見られなかった。平成 29 年度にホテイアオイが植栽された時には食害が目立っていたが、これまでのアメリカザリガニの駆除作業により捕食圧が下がっていることが伺える。

秋期調査時に池の周囲に外来種のセイヨウキランソウ（図Ⅲ-1-3）が多数生育していた。昨年度までは数個体見かける程度であったが、急速に広がったようである。

ビオトープの陸域にはネムノキ、ムクゲ、ウメ、イロハモミジ、ナナカマド、サルスベリなどの高木、ビヨウヤナギ、ハナヅノツクバネウツギ（アベリア）、ムラサキシキブなどの低木が植栽されている。また、植栽されたと思われるクヌギの幼木も見られた。フェンスにはつる植物のミツバアケビ、テイカカズラ、ミューレンベッキア属の一種（ワイヤープランツ）などが巻きついて生育していた。草本はチガヤ、オギ、などが生育し、重点対策外来種のセイタカアワダチソウなども生育していた。植栽されたオカトラノオ、コバギボウシ、タマスダレ、タカノハススキ（ススキの品種）なども生育していた。

公園に造成されたビオトープであるため、植栽種が多いことが特徴である。

生態系被害防止外来種リスト記載種は、マルバフジバカマ、ノハカタカラクサ（図Ⅲ-1-2）、ムラサキカッコウアザミ、フヨウなどが生育している。

②花壇

ビオトープに隣接した花壇には花の咲く園芸植物が多く植えられ、チョウ類がよく見られた。春期調査時にはバイカウツギ、アジサイ、ニオイバンマツリなど低木の開花、ケショウサルビア（ブルーサルビア）、オオヒエンソウ属の一種（デルフィニウム）などの開花が見られた。

秋期調査時にはキク属の一種、コウソウソウ属の一種（マリーゴールド）、パンジ

一、クササentanカ（ペンタス）、サクラソウ属の一種などの開花が見られた。かつては畑や道端などで見られ、区内では少なくなっている在来種のコミカンソウも生育していた。コミカンソウは目白通り側の出入口付近にある花壇にも生育していた。

③いのちの森

クスノキ、タブノキ、シロダモ、シラカシ、ユズリハなど常緑広葉樹を中心とした植樹林である。カナメモチ、トベラ、シモツケ、ハナヅノツクバネウツギ（アベリア）、サツキ、ヒラドツツジなど、花にチョウやハナアブ類、ハチ類などが吸蜜に訪れる低木類が植栽されている。その他、コムラサキ、クチナシ、コクチナシなどの低木も植栽されていた。生態系被害防止外来種リスト記載種のトウネズミモチ、シュロ（図Ⅲ－１－２）が植栽種に混じって生育しており、今後、増えないように伐採することが望ましい。本来は沖縄県に分布し、近年植栽されることの多くなった国内外来種の新マトネリコもどこからか逸出して、いのちの森内に生育している。これも増えないように伐採することが望ましい。

④草地

公園内の大部分が草地である。オオバコ、シロツメクサが多い草地でコウライシバも混じっていた。春期調査ではスズメノカタビラ、秋期調査ではオヒシバなども見られた。昨年度の春期調査時に草地全体に見られた外来種のカラクサナズナは分布の拡大が懸念されたが、今年度はビオトープに隣接する花壇周辺や草地の一部で少し見られた程度で分布は縮小していた。

草地の所々にグランドカバーとして用いられる外来種のアオイゴケ属の一種（ディコンドラ）が見られた。



ヒメガマ（R2年11月4日）



ヨシ（R2年11月4日）



ビヨウヤナギ(R2年5月26日)



テイカカズラ（R2年5月26日）

図Ⅲ－１－４ 確認された主な植物（南長崎はらっぱ公園）（1/2）



チガヤ (R2年5月26日)



ケショウサルビア(ブルーサルビア)
(R2年5月26日)



オオヒエンソウ属の一種(デルフィニウム)
(R2年5月26日)



コウオウソウ属の一種(マリーゴールド)
(R2年11月4日)



サクラソウ属の一種(R2年11月4日)



コミカンソウ (R2年11月4日)



シモツケ(R2年5月26日)



シマトネリコ(R2年5月26日)

図Ⅲ-1-4 確認された主な植物 (南長崎はらっぱ公園) (2/2)

2) 南池袋小学校

①ビオトープ

昔からあったと思われる南向きの斜面林を中心とし、斜面下部に池が造られている。池の南側に隣接して畑がある。斜面林上部の西側には花壇が造られている。

高木層にはエノキ、ムクノキ、メタセコイアなどの落葉樹、アラカシ、シラカンなどの常緑樹が生育していた。ナツミカン、カキノキなどの果樹、モッコクなどの庭木も見られた。低木層にはヤツデ、シュロ、ムラサキシキブ、トウネズミモチなどが生育していた。林床はアズマネザサが優占していた。生態系被害防止外来種リスト記載種のシュロは結実していたため、鳥類により遠くまで種子が運ばれていると思われる。校内だけでなく校外の緑地にも種子が広がってしまうため、伐採することが望ましい。

斜面林上部の林床には古くから生育していると思われるウラシマソウ、ムラサキケマン、サネカズラなどが生育していた。春期調査時はムラサキケマンの個体数が少なかったが、秋期調査で樹林の西側に造られた花壇に実生が多数あることを確認した。

春期調査時には池に近い斜面下部の樹林内にタチツボスミレ、マルバスマミレが生育していた。マルバスマミレは平成24年度以降の専門家調査では初確認である。秋期調査時には斜面林上部の東側の植栽地にタチツボスミレが多数生育していた。スミレ類は区内では少ない上に外来種のアメリカスミレサイシン（図Ⅲ-1-3）が広がりつつある。しかし、本調査地ではアメリカスミレサイシンは確認されておらず、貴重な在来スミレの生育地となっている。一方で、斜面林上部の周辺の花壇、植栽地には外来種のハタケニラ（図Ⅲ-1-3）が多数生育していた。在来種が残る一方で外来種が広がってきている。

ビオトープ池の岸の一部にはセキショウが植栽されているが、春期調査時に水中に水生植物は生育していなかった。秋期調査より前にホテイアオイ、オオカナダモ（図Ⅲ-1-2）、イヌホタルイなどが植栽された。オオカナダモはアメリカザリガニに捕食され、秋期調査時には確認することができなかった。他にも水生植物が植栽されたようだが、空のプランターだけが残っており、アメリカザリガニにより食害されたと思われる。

ビオトープに隣接する畑には、春期調査時にはトマト、ナス、アサガオなどが植栽され、シロザ、ハキダメギク、オランダミミナグサ、コハコベなども生育していた。秋期調査時にはナス、ニンジン、インゲンマメ、オクラなどが植栽され、シロザ、ハキダメギクなども生育していた。

②校舎東側の草地

春期調査時にはシロツメクサ、アオカモジグサが多く生育し、秋期調査時にはメヒシバ、オヒシバ、イヌタデなどが多く、キツネノマゴなども見られた。区内では草地が少ないため、昆虫類などの動物にとって貴重な環境である。樹木の根元に区内では比較的少ないヤブソテツが生育していた。一方で、草地の一角に重点対策外来種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）（図Ⅲ-1-2）がマット状に広がっており、他の植物を覆いつつある。多様な植物が生育できるように除草することが望ましい。

③校舎西側の植栽地

花壇が造られ、平成30年7月に「学校の森」記念植樹が行われている。花壇にはサツキ、ヒラドツツジ、アジサイなどが植栽されている。他にアズマネザサ、ミドリヒメワラビ、ミズヒキ、重点対策外来種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）などが生育していた。ノハカタカラクサ（トキワツユクサ）は秋期調査時には長さ6mにわたり花壇を覆っていた。多様な植物が生育できるように除草することが望ましい。

校舎西側の植栽地は法明寺と接しており、上述した花壇を過ぎ、西側に入っていくとフェンス沿いにクズ、ヤブミョウガなどが生育していた。

③グラウンド南東側から南側の植栽地

平成21年4月に「学校の森」記念植樹が行われた。樹木はグラウンドの南東側に多く植栽され、グラウンド南側はカナメモチの生垣の内側に樹木が点在している。

コブシ、ヤマボウシ、ヤブニッケイ、シラカシ、ヒメユズリハなどが植栽されている。グラウンド南側の生垣と舗装されたグラウンドの間は狭い草地になっており、ドクダミ、オッタチカタバミ、ナズナ、ヘビイチゴ、コヒルガオなどが生育していた。秋期調査時にはグラウンドの南側のフェンスに重点対策外来種のマメアサガオ（図Ⅲ-1-2）が生育し、高い位置までつるが伸びていた。



ウラシマソウ（R2年5月26日）



ムラサキケマン（R2年5月26日）



サネカズラ（R2年5月26日）



マルバスマシ（R2年5月26日）

図Ⅲ-1-5 確認された主な植物（南池袋小学校）（1/2）



タチツボスミレ (R2年11月4日)



ハキダメギク (R2年5月26日)



キツネノマゴ (R2年11月4日)



ヤブソテツ (R2年5月26日)



ヤブミョウガ (R2年11月4日)



ヤマボウシ (R2年5月26日)



ヒメユズリハ (R2年5月26日)



コヒルガオ (R2年5月26日)

図Ⅲ-1-5 確認された主な植物 (南池袋小学校) (2/2)

3) 西巣鴨小学校

①ビオトープ

コンクリート池にプランターに植えた水生植物を水中に沈める形で設置したビオトープである。池に隣接した小さな草地と花壇がある。池の対面にはプールがありプールに沿って樹木が植栽された植栽地がある。

池にはアサザ(図Ⅲ-1-1)、フトイ、ナガバオモダカ、アヤメ属の一種(花が確認できなかったため種は不明)、オオカナダモなどが植栽されていた。オオカナダモ(図Ⅲ-1-2)はプランターでなく池に直接入れられていた。プランターには国RL記載種で準絶滅危惧種のカワヂシャ(図Ⅲ-1-1)が生育していたが、他の水生植物とともに持ち込まれたと思われる。その他、セリ、タマガヤツリ、ヒデリコ、外来種のホソバヒメミソハギなど湿地に生育する種が確認された。セリは植栽した可能性があるが、その他は植栽した植物とともに持ち込まれたものと思われる。調査対象ではないが、水中には糸状藻類が多く生育していた。

水面に葉を広げる浮葉植物としてアサザが、半分水に浸かった状態でトンボ類が羽化するときに利用できる抽水植物としてフトイ、ナガバオモダカ、アヤメ科の一種など、水の中に沈んだ形で生育する沈水植物としてオオカナダモが生育しており、水生植物に産卵するイトトンボ類の産卵の場やトンボ類の幼虫やメダカなどが隠れ場として利用でき、多様な水生生物が生息できる環境といえる。

池の手前の草地には春期調査時に、いずれも外来種であるウラジロチチコグサ、マメカミツレ、アメリカスミレサイシン(図Ⅲ-1-3)が多く生育していた。秋期調査時には、メヒシバ、エノコログサ、ススキなどが生育していた。外来種のアメリカタカサブロウ(図Ⅲ-1-3)も多く生育していた。

池に隣接する花壇にはヒラドツツジ、シチヘンゲ(図Ⅲ-1-2)などが植栽され、花壇の手前の草地には春期調査時には外来種のユウゲショウが群生していた。

②体育館周辺

体育館の南西側には、敷地境界に沿ってサツキ、ヒラドツツジ、アジサイが植栽され、周囲は日当たりのよい草地になっていた。春期調査時にはコヒルガオ、ドクダミが多く生育していた。秋期調査時にはヤブガラシ、ドクダミなどが多く生育していた。

③グラウンドの周囲

グラウンドの北東側は舗装されておらず、遊具が設置されている。その一角に樹冠の大きなスタジイがあり、藤棚も造られている。敷地境界に沿って、イヌリンゴ、コデマリ、クチナシなどが植栽されていた。古タイヤで造られた遊具の根元にはコスミレが生育していた。区内では在来種のスミレ類は少ない。古くからある学校であるため、地歴の古い土壌が残り在来種が生育し続けることができたと考えられる。グラウンドの南東側の敷地境界に沿ってヒマラヤスギなどが植栽されていた。敷地の東南側の角には重点対策外来種のトウネズミモチの高木が生育していた。調査時に結実を確認していないが、結実している場合は果実を食べた鳥類が糞をすることによって種子が遠くまで運ばれるため、開花結実しないように剪定するか伐採することが望ましい。

④畑、水田

グラウンドの南西側に水田、畑が造られている。春期調査時には畑にジャガイモ、秋期調査時にはサツマイモなどが植えられていた。作物が植えられていない畑は、秋期調査時にはエノコログサなどが生育する草丈の高い草地になっていた。このような草地は区内に少ないため、バッタ類など草地性の昆虫類の生息地として貴重である。水田ではイネが栽培され、コナギやアオウキクサが生育していた。



ナガバオモダカ (R2年5月27日)



タマガヤツリ (R2年11月2日)



ホソバヒメミソハギ (R2年11月2日)



マメカミツレ (R2年5月27日)



シチヘンゲ (R2年5月27日)



ユウゲショウ (R2年5月27日)

図Ⅲ-1-6 確認された主な植物 (西巣鴨小学校) (1/2)



スダジイ (R2年5月27日)



フジ (R2年11月2日)



コスミレ (R2年5月27日)



コナギ (R2年11月2日)

図Ⅲ-1-6 確認された主な植物 (西巣鴨小学校) (2/2)

3) 仰高小学校

①ビオトープ

水をポンプで循環させた池があり、池の周囲には樹木が植栽されている。昔からあったと思われるクスノキの大木があり、大きく樹冠を広げていた。その他、ケヤキ、コナラ、ネムノキ、クサギなどの落葉樹、スダジイ、アラカシ、シロダモ、モッコクなどの常緑樹が植栽されていた。低木類はヤツデ、クロモジ、ミツバウツギ、ナンテンなどが植栽されていた。樹種が多いのが特徴的である。

林床にはヤブコウジ、ヤブラン、ジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、フキ、イヌケホシダなどが生育していた。イヌケホシダは、本州以南の都市部では、熱帯性植物に混じって温室に持ち込まれたものからの逸出が多数報告されている。これも植栽種とともに持ち込まれた可能性がある。

池にはフトイ、カンガレイ、セリ、ホテイアオイ（図Ⅲ－1－2）、オオカナダモ（図Ⅲ－1－2）が植栽されていた。半分水に浸かった状態でトンボ類が羽化する時に利用できる抽水植物としてフトイ、カンガレイ、水の中に沈んだ形で生育する沈水植物としてオオカナダモが生育している。ホテイアオイは根を定着させない浮遊植物である。その他、ウキクサ、アオウキクサも確認された。水路沿いにはイグサ、サヤマカグサ、アオミズなどが生育していた。

池に様々な生育形態の水生植物が生育していることで、西巣鴨小学校と同様にトンボ類やメダカなどの繁殖の場として利用されやすい環境だと思われる。

掲示板の周りには、つる植物のムベ、サネカズラ、テイカカズラが植栽されていた。

②グラウンド沿いの花壇

春期調査時にはジャガイモ、インゲンマメ、ヘチマ、ナス、ヒマワリなどが植栽されていた。

秋期調査時にはサツマイモ、ナス、コウオウソウ属の一種（マリーゴールド）などが植栽されていた。

③南門からグラウンドまでの通路

通路沿いにはドウダンツツジ、アカバナトキワマンサク（ベニバナトキワマンサク）、カザンデマリ（ヒマラヤトキワサンザシ）などの低木が植栽されている。グラウンドの入口付近にはカナメモチの生垣、藤棚がある。

春期調査時には、低木の根元にドクダミ、エビヅル、外来種のヒルザキツキミソウなどが生育していた。エビヅルは区内では珍しい。秋期調査時には、低木の根元にドクダミ、コヒルガオなどが生育していた。1株だけだったが、区内では珍しいムラサキケマンも生育していた。

④校舎の北東側

染井霊園と接しており、平成21（2009）年4月に「学校の森」植樹が行われている。ムクノキ、シラカシ、スダジイ、ゲッケイジュ、コブシなどの高木、キンモクセイ、アオキなどの低木が生育していた。樹木の幹に区内では珍しい着生シダ類のノキシノブが生育していた。染井霊園の樹林と隣接し、湿り気が保たれた樹林環境が維持されているためと考えられる。

⑤校舎の北西側

染井霊園と接しており、平成30(2018)年7月に「学校の森」記念植樹が行われている。カキノキ、イチョウ、ナツミカン、ユズリハなどの高木、サカキ、アオキなどの低木が生育していた。樹木の根元にはヤブミョウガ、チヂミザサ(ケチヂミザサ)などが生育していた。外来種のアメリカスミレサイシンも数株見られた。敷地の南西側の角にはトウバナが生育していた。

自転車置場に隣接する土の溜められた場所に、重点対策外来種のノハカタカラクサ(トキワツユクサ)(図Ⅲ-1-2)がマット状に生育していた。生育範囲を広げやすい植物であるため、除草することが望ましい。



クロモジ (R2年5月27日)



ヤブコウジ (R2年5月27日)



イヌケホシダ (R2年5月27日)



アオミズ (R2年11月2日)

図Ⅲ-1-7 確認された主な植物(仰高小学校)(1/2)



ムベ (R2年5月27日)



エビヅル (R2年5月27日)



ムラサキケマン (R2年11月2日)



ノキシノブ (R2年11月2日)



ナツミカン (R2年5月27日)



トウバナ (R2年5月27日)

図Ⅲ-1-7 確認された主な植物 (仰高小学校) (2/2)

(5) 植物調査のまとめ

1) 南長崎はらっぱ公園

ビオトープは、池の水中にはスイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）、ヒメガマ、ヨシ、フトイなどが生育し、池の周囲はヨシが優占していた。池の上流部の浅瀬に緊急対策外来種で特定外来生物のオオカワヂシャが生育していた。オオカワヂシャは昨年度も確認し、なるべく種子が落ちないように廃棄したが、今年度も確認された。今後も見つけたら除去することが望ましい。

池にはホテイアオイが新たに植栽されていたが、アメリカザリガニによる食害は見られなかった。平成 29 年度にホテイアオイが植栽された時には食害が目立っていたが、これまでのアメリカザリガニの駆除作業により捕食圧が下がっていることが伺える。

いのちの森にはクスノキ、タブノキ、シロダモ、シラカシ等の常緑広葉樹を中心とした植栽がされ、カナメモチ、トベラ、ハナヅノツクバネウツギ（アベリア）等、開花し昆虫が吸蜜に訪れる植物も植栽されていた。

本来は沖縄県に分布し、国内外来種であるシマトネリコが樹林内で見られた。種子は風に飛ばされて運ばれるが、近年植栽されていることが多いため、逸出したと思われる。これらの外来種は増えないように除去することが望ましい。

公園の中央に広がる広大な草地はオオバコ、シロツメクサが多く、コウライシバ、スズメノカタビラ、オヒシバなども生育していた。

重点対策外来種のトウネズミモチ、その他の総合対策外来種（国内由来）のシュロはいのちの森に点在、重点対策外来種のノハカタカラクサ、その他の総合対策外来種のマルバフジバカマ、ムラサキカッコウアザミ、フヨウなどがビオトープ内に生育していた。マルバフジバカマは目白通り沿いの出入口付近の植栽の根元にも生育していた。ビオトープ池の周辺には外来種のセイヨウキランソウが分布を広げていた。

昨年度、いのちの森に生育していた産業管理外来種のハリエンジュは伐採されており、確認されなかった。公園内に生育している重点対策外来種のニワウルシ（シンジュ）とトウネズミモチの一部は根元から伐採されていたが、調査時には枝葉が伸びていた。ある程度大きくなっているため、伐根は難しいと思われるが、定期的に伐採することが望ましい。

2) 南池袋小学校

昔からあったと思われるエノキ、ムクノキ、アラカシ、シラカシなどが生育する南向きの斜面林があり、ビオトープの中心部となっている。斜面下部に池、池の南側には畑がある。

ビオトープの樹林にはウラシマソウ、ムラサキケマン、サネカズラ、マルバスマミレ、タチツボスマミレなど古くからある樹林ならではの在来種が見られた。マルバスマミレは平成24年度以降の専門家調査では初確認であった。斜面上部の樹林東側の植栽地にタチツボスマミレが多数生育していた。外来種のアメリカスマミレサイシンはまだ確認されていないため、このまま在来スマミレの群落を保全していきたい場所である。

区内で少なくなった在来種が生育している一方で、斜面林上部の樹林の周辺には春期調査時に外来種の花ケニラが多数生育していた。

重点対策外来種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）が校舎東側の草地と校舎西側の植栽地にマット状に広がっていた。他の植物の生育する場所を奪ってしまうため、除草することが望ましい。同じく重点対策外来種のマメアサガオがグラウンド南側のフェンスの高い位置まで伸びて広がっていた。分布をさらに広げるおそれがあるため、今後は結実する前につるを取り除くなど、対策が必要である。

池にはアメリカザリガニが生息しており、秋期調査前に植栽されたオオカナダモなどが食害されて消失していた。水生植物が水中にほとんどない状態のため、トンボ類の幼虫（ヤゴ）などの水生生物の隠れ場が少ない状態である。

多様な水生生物が生育できるようにするには、まずはアメリカザリガニを駆除することが重要である。アメリカザリガニの駆除と並行して、水面に葉を広げるアサザやスイレンなどの浮葉植物（ホテイアオイなどの浮遊植物で代替も可）、植物体の一部が水に浸かった状態の抽水植物、水中に沈んだ状態の沈水植物など多様な水生植物の植栽が必要である。その際、トンボ類が上空から水面を認識できるように水面が覆われていない部分も造ることが必要である。

3) 西巣鴨小学校

コンクリート池を中心としたビオトープである。浮葉植物としてアサザが、抽水植物としてフトイ、ナガバオモダカ、アヤメ科の一種など、沈水植物としてオオカナダモが植栽され、水生植物に産卵するイトトンボ類も利用できるビオトープ池となっている。糸状藻類が多く発生していたが、ボランティアの方が定期的に取り除いているとのことである。定期的に維持管理されていることも様々な水生生物が生息できる要因の一つであると考えられる。

コンクリート池という単純な造りであっても、様々な水生植物を植栽し、定期的に維持管理をすることによって、水生生物の生息環境を整えることができた好事例であると考えられる。

グラウンドの北東側の一角にある古タイヤで造られた遊具の根元に区内では珍しいコスミレが生育していた。地歴の古い土壌が残っているため、在来種も残っていたのだと考えられる。

外来種はビオトープ手前の草地にアメリカスミレサイシン、アメリカタカサブロウなどが生育していた。特にアメリカタカサブロウは多く生育していたため、除草することが望ましい。

植栽された生態系被害防止外来種リスト記載種が多い。ナガバオモダカ、オオカナダモ、シチヘンゲ、シュロ、ビワ、キウイフルーツなどは周りに広がらないように管理する必要がある。トウネズミモチは高木が敷地の東南側の角にあったが、開花結実しないように剪定か伐採をすることが望ましい。

4) 仰高小学校

ビオトープは大きく樹幹を広げたクスノキの大木を中心とし、様々な種類の樹木が植栽されている。ビオトープ池は水をポンプで循環させている。池には浮遊植物のホテイアオイ、抽水植物のフトイ、カンガレイ、沈水植物のオオカナダモなど、多様な生育形態の水生植物が植栽されている。水生植物に産卵するイトトンボ類も利用できる環境となっており、都 RL（区部）で絶滅危惧 I B 類のキイトンボの繁殖が確認さ

れている（「2. 昆虫類調査」、「4. 水生生物調査」参照）。

南門からグラウンドまでの通路沿いの植栽地で、区内では珍しいエビヅル、ムラサキケマンを確認した。

校舎の北東側と北西側は染井霊園と接している。校舎の北東側の樹木の幹に区内では珍しい着生シダ類のノキシノブが生育していた。染井霊園の樹林と隣接し、湿り気が保たれた樹林環境が維持されているためと考えられる。

重点対策外来種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）が校舎の北西側の自転車置場に隣接する土の溜められた場所にマット状に生育していた。生育範囲を広げやすい植物であるため、除草することが望ましい。外来種は他にアメリカスミレサイシンが同じく校舎の北西側に数株生育していた。こちらも分布を広げてしまう前に除草したい植物である。

2. 昆虫類調査

(1) 調査結果概要

昆虫類は、12目 74科 170種が確認された（科、属レベルまで判明したものを含む（表Ⅲ－2－1））。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 97種、南池袋小学校で 73種、西巣鴨小学校 71種、仰高小学校 61種であった。

平成 31（令和元）年度の南長崎はらっぱ公園 70種、池袋本町小学校ビオトープ 48種と比較してみると、今回対象とした各小学校の小規模な緑地であるビオトープにおいても、ほぼ同程度の昆虫相を確認できたといえる。南長崎はらっぱ公園においてはやや確認種数が増加した。

(2) レッドリスト記載種

国RL記載種に当たる種はなかった。都RL（区部）記載種は以下の1種であった（図Ⅲ－2－1）。

（絶滅危惧ⅠB類） キイトトンボ （仰高小学校）

調査対象ではなかったが、国RLで準絶滅危惧、都RL（区部）で絶滅危惧Ⅱ類のキシノウエタテグモの巣を確認したため、ここに記載する（図Ⅲ－2－1）。



キイトトンボ
(R2年8月4日 仰高小学校)



キイトトンボ羽化殻
(R2年8月4日 仰高小学校)



キシノウエタテグモの巣
(R2年9月30日 南池袋小学校)

図Ⅲ－2－1 確認されたレッドリスト記載種(昆虫類・クモ類)

(3) 外来種

南長崎はらっぱ公園でセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、南長崎原っぱ公園と南池袋小学校でアメリカミズアブが確認された。また、2010年ごろから関東地方で北上傾向を示すキマダラカメムシも全調査地で確認した。この種は1770年代に長崎で初確認されて以来、200年間ほど日本での記録がなく、現在外来種としての扱いは安定していないようであるが、ここでは外来種として扱った。



セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ
(R2年8月7日 南長崎はらっぱ公園)



キマダラカメムシ
(R2年9月30日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-2 確認された主な外来種(昆虫類)

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(1/3)

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園		南池袋 小学校		西巢鴨 小学校		仰高 小学校		備考		
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋			
トンボ	イトトンボ	1	キイトンボ							●		都RL(区部):EN 羽化殻も確認		
		2	クロイトトンボ						●					
		3	イトトンボ科の一種		●		●						アジアみ?/秋期	
	ヤンマ トンボ	ヤンマ	4	ギンヤンマ					●	●			プールにて羽化殻確認	
			5	アキアカネ		●		●						
		トンボ	6	アカネ類の一種							●			プール上を飛翔
			7	コシアキトンボ	●									羽化殻初確認
			8	ショウジョウトンボ					●					
			9	ウスバキトンボ	●							●		
			10	シオカラトンボ	●	●	●		●	●				
			11	オオシオカラトンボ	●	●	●				●			
			12	トンボ科の一種						●				プール上を飛翔
13			クロゴキブリ				●	●						
ゴキブリ	ゴキブリ													
カマキリ	カマキリ	14	ハラビロカマキリ							●	●			
		15	コカマキリ			●								
ハサミムシ	マルムネハサミムシ	16	キアシハサミムシ					●				コバネハサミムシ		
		17	ヒゲジロハサミムシ			●								
バッタ	キリギリス コオロギ	18	クビキリギリス		●									
		19	モリオカメコオロギ		●		●		●		●			
		20	ハラオカメコオロギ		●				●		●			
		21	ツツレサセコオロギ		●		●		●		●			
	22	コオロギ科の一種			●		●					幼虫/夏期		
	カネタタキ	カネタタキ	23	カネタタキ		●						●		
			24	オンブバッタ		●	●	●	●	●	●	●		
	オンブバッタ バッタ	コバネイナゴ	25	コバネイナゴ	●	●								
			26	ショウリョウバッタ	●									
			27	イボバッタ	●	●								
28			ミドリゲンバイウンカ	●					●		●			
カメムシ	ゲンバイウンカ セミ	29	アブラゼミ	●		●		●		●	●			
		30	ツクツクボウシ	●							●			
		31	ミンミンゼミ	●		●		●		●				
		32	ニイニイゼミ	●						●				
	ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ	33	ツマグロオオヨコバイ		●	●	●						
			34	タイワンヒゲナガアブラムシ					●					
	アブラムシ	セイタカアワダチソウヒゲナガ アブラムシ	35	セイタカアワダチソウヒゲナガ アブラムシ	●								外来種	
			36	カシオオアブラムシ	●									
			37	オヒシバクロアブラムシ?		●								メヒシバにいた
			38	アブラムシ科の一種			●							イヌホオズキにいた
	カイガラムシ	カイガラムシ科の一種	●											
	ゲンバウムシ	ゲンバウムシ科の一種									●			
	マキバサシガメ	マキバサシガメ科の一種	●				●	●						
	ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ					●							
	ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	43	ホオズキカメムシ	●									
			44	ハリカメムシ								●		
			45	ミナミトゲヘリカメムシ				●						
	ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ		●		●		●						
イトカメムシ	イトカメムシ			●				●						
ヒゲナガカメムシ	ヒゲナガカメムシ	●			●	●	●	●	●					
ヒョウタンナガカメムシ	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ					●	●							
マダラナガカメムシ	ヒメナガカメムシ	50	ヒメナガカメムシ								●			
		51	ヒメナガカメムシ属の一種	●		●								
		52	マダラナガカメムシ科の一種			●								
		53	キマダラカメムシ		●	●		●	●		●			
カメムシ	ヒメナガメ	54	ヒメナガメ				●	●						
		55	ナガメ	●										
		56	クサギカメムシ	●	●	●					●			
		57	オオクロカメムシ								●			
マルカメムシ	マルカメムシ								●					
アミメカゲロウ	クサカゲロウ	59	ヨツボシクサカゲロウ							●		幼虫		
		60	クサカゲロウ科の一種				●					幼虫		
チョウ	ミノガ	61	ミノガ科の一種								●	幼虫		
		62	コスカシバ		●									
		63	ヒロヘリアオイラガ				●						幼虫	
		64	キマダラセセリ	●	●									
		65	イチモンジセセリ	●	●	●		●		●				

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(2/3)

目名	科名	No.	種名	南長崎はらっぱ公園		南池袋小学校		西巣鴨小学校		仰高小学校		備考	
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋		
チョウ	セセリチョウ	66	チャバネセセリ		●		●				●		
		アゲハチョウ	67	クロアゲハ					●				
			68	ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	
			69	カラスアゲハ							●		
			70	アオスジアゲハ	●		●		●		●		
	シロチョウ	71	キタキチョウ		●		●						
		72	モンシロチョウ	●			●						
	シジミチョウ	73	ウラナミシジミ				●						
		74	ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●		
	タテハチョウ	75	ツマグロヒョウモン	●	●	●	●		●	●	●		
		76	ゴマダラチョウ			●							
		77	サトキマダラヒカゲ			●							
		78	ヒメジャノメ	●		●	●	●	●				
	メイガ	79	メイガ科の一種		●								
	ツトガ	80	アワノメイガ					●					
		81	シロオビノメイガ		●		●		●				
		82	ノメイガ亜科の一種		●		●						
		83	ツトガ科の一種		●		●						
	スズメガ	84	オオスカシバ	●				●				卵、幼虫	
		85	サザナミスズメ							●			
		86	ホシホウジャク							●			
		87	セスジスズメ							●			
	シャチホコガ	88	モンクロシャチホコ								●	幼虫	
	ヒトリガ	89	キハラゴマダラヒトリ								●		
	シャクガ	90	ベニスジヒメシャク属の一種		●								
		91	ヒメシャク亜科の一種		●								
	コブガ	92	ベニモンアオリンガ無紋型?	●								アカマエアオリンガと類似	
	ヤガ	93	ウリキンウワバ				●						
		94	タマナギンウワバ						●				
		95	アツバ類の一種		●								
	ハエ	ガガンボ	96	ガガンボ科の一種				●					
		ミズアブ	97	アメリカミズアブ		●		●				外来種	
		ムシヒキアブ	98	ナガトミヒメムシヒキ	●				●		●		
99			シオヤアブ	●									
100			アシナガキンバエ類の一種	●		●	●	●		●			
ハナアブ		101	ホソヒラタアブ	●	●	●	●						
		102	キゴシハナアブ		●								
		103	モモトチビハナアブ	●									
		104	ヒメヒラタアブ類の一種		●				●				
		105	ハイジマハナアブ類の一種		●	●			●				
ミギワバエ		106	ミナミカマバエ				●						
ミバエ		107	ミスジミバエ		●	●	●						
ハナバエ		108	クロオビハナバエ	●									
イエバエ		109	ヒメクロバエ類の一種	●	●								
		110	イエバエ科の一種		●						●		
クロバエ	111	キンバエ類の一種	●	●	●	●		●		●			
ニクバエ	112	シリグロニクバエ						●		●			
	113	ニクバエ科の一種	●	●	●	●	●		●				
ヤドリバエ	114	カイコノウジバエ属の一種			●								
	115	ヤドリバエ科の一種		●					●				
コウチュウ	オサムシ	116	トゲアトキリゴミムシ	●									
	ハンミョウ	117	トウキョウヒメハンミョウ					●					
	コガネムシ	118	アオドウガネ					●	●	●			
		119	コフキコガネ	●							死骸		
		120	マメコガネ	●									
		121	シロテンハナムグリ							●			
	タマムシ	122	クズノチビタマムシ			●	●						
	テントウムシ	123	アカホシテントウ			●		●	●				
		124	トホシテントウ								●		
		125	ニジュウヤホシテントウ					●		●			
		126	ナミテントウ	●			●		●				
		127	キイロテントウ		●		●						
		128	ダンダラテントウ		●				●				
129		ヨツボシテントウ						●					
130		ヒメカメノコテントウ		●									

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(3/3)

目名	科名	No.	種名	南長崎はらっぱ公園		南池袋小学校		西巢鴨小学校		仰高小学校		備考
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	
コウチュウ	ハムシ	131	テントウノミハムシ						●			
		132	ウリハムシ		●				●			
		133	クロウリハムシ		●		●				●	
		134	アオバネサルハムシ	●								
		135	キバラリクビボソハムシ			●	●		●		●	
		136	ルリマルノミハムシ				●		●			
		137	ナスナガスネトビハムシ				●					
		138	サンゴジュハムシ	●		●						
		139	ドウガネサルハムシ			●		●	●			
	ゾウムシ	140	スグリゾウムシ	●	●			●		●		
ハチ	ミフシハバチ	141	チュウレンジバチ					●				
		142	ルリチュウレンジ				●					
	ハバチ	143	ニホンカブラハバチ		●							
	ヒメバチ	144	ヒメバチ科の一種	●								
	アリ	145	オオズアリ	●						●	●	
		146	トビイロシワアリ	●					●			
		147	ハリブトシリアゲアリ	●	●			●	●			
		148	アミアリ	●		●		●	●			
		149	クロヤマアリ	●	●	●		●	●	●	●	
		150	トビイロケアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	
		151	アメイロアリ			●						
		152	サクラアリ							●	●	
		153	クロオオアリ							●	●	
		154	ヨツボシオオアリ							●		
		155	ウメマツオオアリ		●							
	ドロバチ	156	オオフタオビドロバチ本土亜種				●					
	スズメバチ	157	フタモンアシナガバチ						●			
158		セグロアシナガバチ	●		●		●					
159		コアシナガバチ	●				●					
160		コガタスズメバチ		●			●	●		●		
ツチバチ	161	ヒメハラナガツチバチ			●	●	●					
	162	キンケハラナガツチバチ				●				●		
	163	キオビツチバチ			●							
ハキリバチ	164	オオハキリバチ	●									
	165	ハキリバチ科の一種			●				●	●		
コハナバチ	166	コハナバチ属の一種					●					
ミツバチ	167	キムネクマバチ	●				●					
	168	セイヨウミツバチ	●				●					
	169	ミツバチ科の一種							●			
	—	170	小型ハナバチ類の一種	●		●	●		●			
12	74	170		59	55	41	48	45	44	34	38	
				97		73		71		61		

都RL: 東京都レッドリスト EN: 絶滅危惧 I B類

(4) 各調査地の昆虫類確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ池周辺

池の中心にはヒメスイレンがある。浅い部分や周辺にはヒメガマやヨシがあり、定期的に入入れされている。池周辺にはハナヅノツクバネウツギ（アベリア）等の低木が植栽されている。

夏期調査では、池畔のコシウハッカの茎でコシアキトンボの抜け殻を初確認できた。トンボ類は飛翔するシオカラトンボを確認したが、コシアキトンボの成虫は確認できなかった。池周辺の藪ではコバネイナゴの幼虫やショウリョウバッタ雄といった草地性のバッタ類や、ナミアゲハやアオスジアゲハ、キマダラセセリといったチョウ類が確認できた。近接する花壇ではシオカラトンボや園芸種に訪花するナミアゲハ、ヤマトシジミを確認した。

秋期調査では池周辺でイトトンボ科（おそらくアジアイトトンボ）の雄を目視した。トンボ類はその他シオカラトンボ、アキアカネを確認している。ビオトープ周辺の草はらではハラオカメコオロギの鳴き声を確認した。その他、池周辺の藪ではクビキリギスやオンブバッタ、コバネイナゴといった種も確認できた。チョウ類はナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、チャバネセセリを確認している。これらは近接する花壇にも訪花していた。

②いのちの森

照葉樹を中心とした植樹林である。

夏期調査ではオオシオカラトンボ、ウスバキトンボを確認した。バッタ類はイボバッタを確認している。樹上で鳴くニイニイゼミやアブラゼミ、ツクツクボウシが確認でき、チョウ類はアオスジアゲハ、ヤマトシジミを確認した。植え込みのクチナシではオオスカシバの卵を確認した。歩道沿いでコフキコガネの死骸を1個体確認している。樹間ではコアシナガバチ、セグロアシナガバチの飛来を確認した。

秋期調査では、枝に静止するアキアカネを確認した。バッタ類はイボバッタの他、樹上で鳴くカネタタキ、公園の敷地外であるが、隣接する民家の庭から聞こえるモリオカメコオロギの声を確認した。チョウ類はイチモンジセセリ、スカシバガ科のコスカシバを確認した。

③草地

公園の大部分を占める低茎の草地である。一部植栽された樹木がある。

夏期調査ではイネ科の草地でマキバサシガメ科の一種を、植樹されたエンジュの花に訪花するキムネクマバチ、オオハキリバチを確認した。

秋期調査では、ヤマトシジミなど都心のビオトープで見られる種が確認できた。

2) 南池袋小学校

①ビオトープ

傾斜部を利用した緑地をコの字型に校舎で囲み、斜面林を中心にして低地部にビオトープ池が設置してある。斜面林は元々の植生をそのまま利用しており、ムクノキやエノキなどの比較的大きな樹木がみられる。林床はアズマネザサが主である。ビオトープ池の南、グラウンドに面して畑がある。

夏期調査ではビオトープ池周辺で オオシオカラトンボ、ヒメジャノメやサトキマダラヒカゲを確認した。畑に植えられたホウセンカ等にヒメハラナガツチバチ、ハキリバチ科の一種などが訪花しており、キオビツチバチも確認できた。

秋期調査では産卵地への移動途中と思われるアキアカネを確認した。斜面林上部の校舎壁際にある植栽帯や畑などではモリオカメコオロギを確認した。畑に植えられたアズキ、カボチャ等の花ではウラナミシジミやヤマトシジミ、イチモンジセセリやツマグロヒョウモンなどのチョウ類やホソヒラタアブといった訪花性の昆虫類が目立っていた。調査対象ではなかったが、国RLで準絶滅危惧、都RL(区部)で絶滅危惧Ⅱ類のキシノウエトタテグモの巣を、斜面林のムクノキの根元で確認した(図Ⅲ-2-1)。

②百葉箱周辺の緑地

学校敷地の東側に緑地があり、百葉箱が設置されている。周囲は一部畑地として利用され、そのほかの場所は人の踏圧地以外は草本の茂るままになっている。

夏期調査時は、ゴマダラチョウが飛翔するのを目視した。草本類の茂みでは、コオロギ科の一種やオンブバッタの幼虫、コカマキリの幼虫が確認できた。また、ツユクサに依存するキバラルリクビボソハムシや、植栽されたハナゾノツクバネウツギ(アベリア)にヒメハラナガツチバチが訪花するのを確認した。

秋期調査時、草本類の茂みでイトトンボ科の一種(おそらくアジアイトトンボと思われる)を確認した。バッタ類ではモリオカメコオロギ、オンブバッタを、チョウ類ではイチモンジセセリやチャバネセセリ、ヒメジャノメ等を確認している。

③グラウンド周辺

芝のグラウンドと、周辺に沿って残された草本類の茂みがある。

夏期調査ではシオカラトンボ、キマダラカメムシ幼虫などを確認した。

秋期調査ではグラウンド周辺ではミナミトゲヘリカメムシやヒゲナガカメムシ、シロオビノメイガといったイネ科を主体とした草地を好む昆虫類を確認した。またツツレサセコオロギの鳴き声も確認した。

④校舎西側の植栽地

敷地を隔てた法明寺側には樹木が植栽されている。植栽帯の一部にはツツジ類などが植栽されているが、クズやイヌホオズキといった各種草本類が生えている。

夏期調査ではヒメジャノメ、セグロアシナガバチが飛来した。クズの葉につくクズノチビタマムシ成虫も確認した。

秋期調査ではモリオカメコオロギの鳴き声を確認した。夏期調査に引き続きヒメジャノメやクズノチビタマムシを確認した。

3) 西巣鴨小学校

①ビオトープ

コンクリート製の長方形柵型の人工池を中心にしたビオトープである。水深は40cm程で、水生植物を植えたプランターを沈めてある。浮葉植物（水面に葉を広げる植物）のアサザ、フトイなどの抽水植物（植物体が半分水に浸かった状態のもの）、オオカナダナモなどの沈水植物（水中に生育するもの）が植栽されている。

夏期調査では池畔でシオカラトンボ、ミナミカマバエ（ミギワバエ科の湿地性種）を確認した。ビオトープ周辺にはイネ科等の「雑草的」な草本が生育しており、オンブバッタの幼虫やカメムシ類、ハムシ類など小型の昆虫類の生息場所となっていた。ビオトープ向かいのプール沿いの植栽地ではソメイヨシノや各種樹木の葉裏でアカホシテントウを確認した。この種はカイガラムシ類を捕食する。

秋期調査ではクロイトトンボが飛来していた。調査時にはトンボ類の羽化殻は確認できなかった。

このビオトープと舗装路・植栽帯を隔てた場所にはプールがあり、こちらでは夏期調査時にギンヤンマ、ショウジョウトンボを、秋期調査ではシオカラトンボを確認している。

プールには縁に上がるための手すりが計6カ所あり、それぞれに枝が紐で巻きつけてあった。また手すり付近の水面には枯れ枝を粗朶状に巻いて浮かべたものが設置されていた。秋期調査時にはその枝にギンヤンマの羽化殻12個体、トンボ科の羽化殻1個体を確認している。

これらから、プールなどの開放水面が、飛来するトンボ類（ギンヤンマ、アカネ類等）を誘致するのに有効なものであり、今回の調査時に効果があったことが確認できたといえる。

②グラウンド周辺の緑地

学校敷地のグラウンドを取り巻くように緑地がある。大きなスタジイやソメイヨシノなどが植栽され、遊具の設置された北東部分には土と砂の地面がみられる。南の角地付近に畑と小さなコンクリート張りの田んぼがある。

夏期調査では、ヤブガラシや下草の茂る北東部分でドウガネサルハムシやその他小型の昆虫類、コガタスズメバチの飛来を確認した。畑ではアブラナ科を食草とするヒメナガメをキャベツ上で確認した。

秋期調査では土と砂の地面を低く飛ぶ小型ハナバチ類（コハナバチ科、ヒメハナバチ科など）を確認した。こういった裸地的環境で営巣している可能性がある。これらは小型で目立たないが、各種の花を訪花するポリネーター（花粉媒介者）としての働きがあるかもしれない。畑周辺ではツツレサセコオロギの鳴き声が目立っていた。

③体育館周辺の緑地

敷地の西側に位置する体育館周辺に沿った細長い空間で、「雑草的」な草本が生育している。

夏期調査ではアオスジアゲハの飛来を確認した。

秋期調査ではオンブバッタや、エノコログサやメヒシバといったイネ科草本に来る小型の昆虫類が各種確認できた。

4) 仰高小学校

①ビオトープ

人工池を中心にしたビオトープであり、水は常時ポンプによって循環している。

フトイなどの抽水植物、オオカナダモ等の沈水植物が植栽されている。池周辺にはクスノキの大木などのほか、クロモジなど幾種類かの植栽がみられる。

夏期調査では、ビオトープ池周辺でキイトンボを確認した。池のフトイに抜け殻がついているのを見つけることができ、現時点でこの池で繁殖していることが確認できた。池周辺ではカラスアゲハの飛来、アブラゼミ、ニイニイゼミの鳴き声を確認した。また、池周辺に植栽されたクロモジの葉に、ハキリバチ科の一種がつけた切削痕が多数確認できた。

秋期調査ではモリオカメコオロギの鳴き声を確認した。ビオトープ周辺に生える草本類にチャバネセセリ、イチモンジセセリなどが訪花していた。夏期調査時に確認したクロモジでみられたハキリバチ科の切削痕であるが、2株あるうちの一方の葉にのみ集中していた。

②グラウンド沿いの花壇

園芸種の植栽のほか、ヒマワリや児童の育てているアサガオなどが見られる地点である。

夏期調査時ではヒマワリに飛来するツマグロヒョウモンを確認した。

秋期調査時では植栽されたウリ科の野菜にクロウリハムシが、また熟したヒマワリにヒメナガカメムシが多数確認できた。1匹だがウスバキトンボも確認した。

③校舎北西側および北東側

敷地内の校舎北西辺から北東辺にあたる地点で、染井霊園に接する。北西辺には物置などの小屋類があり、一部にメヒシバ、イヌタデ等の草本類が繁茂する場所がある。北東辺は舗装された通用路で、敷地壁沿いに植栽帯がある。

夏期調査時は草本の繁茂する地点で未成熟期間を過ごしていると思われるキイトンボや、オンブバッタの幼虫、ヤマトシジミなどを確認した。植栽帯の低木ではニイニイゼミの抜け殻も確認できた。

秋期調査ではツヅレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、オンブバッタ等が確認できた。イヌタデやイネ科草本の繁茂する地点ではハリカメムシやヒゲナガカメムシなど、草地を好む昆虫類がみられた。



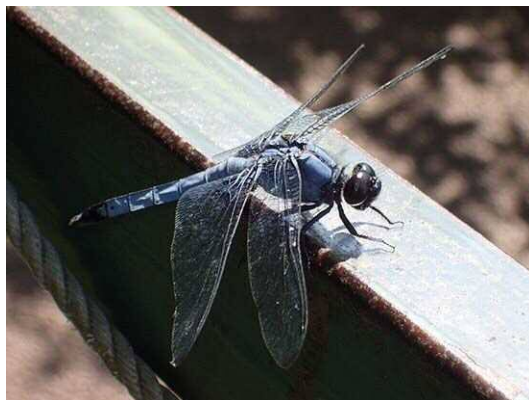
クロイトトンボ 雄
(R2年9月15日 西巣鴨小学校)



アキアカネ 雄
(R2年9月30日 南池袋小学校)



コシアキトンボ羽化殻
(R2年8月7日 南長崎はらっぱ公園)



オオシオカラトンボ 雄
(R2年8月4日 仰高小学校)



ハラオカメコオロギ 雄
(R2年9月15日 仰高小学校)



オンブバッタ 雌
(R2年9月30日 南池袋小学校)



コバネイナゴ 雄
(R2年9月30日 南長崎はらっぱ公園)



イボバッタ
(R2年8月7日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-3 確認された主な昆虫類(トンボ類、バッタ類)



ウラナミシジミ
(R2年9月30日 南池袋小学校)



ヤマトシジミ
(R2年9月15日 西巣鴨小学校)



キマダラセセリ
(R2年9月30日 南長崎はらっぱ公園)



イチモンジセセリ
(R2年9月15日 仰高小学校)



ヒメナガメ
(R2年8月4日 西巣鴨小学校)



シロテンハナムグリ
(R2年8月4日 仰高小学校)



アカホシテントウ
(R2年9月15日 西巣鴨小学校)



ヒメハラナガツチバチ 雌
(R2年8月4日 西巣鴨小学校)

図Ⅲ-2-4 確認された主な昆虫類 (チョウ類、その他)

(5) 昆虫類調査のまとめ

今回の調査では4地点いずれも水辺ビオトープがあり、トンボ類を確認することができた。西巢鴨小学校と仰高小学校では、クロイトトンボやキイトトンボといった沈水性や抽水性の水生植物が繁茂する水辺環境を好むイトトンボ類が飛来できる環境として機能しているようで、仰高小学校ではキイトトンボの羽化殻の確認により、繁殖していることも分かった。この2地点ではアメリカザリガニがいないこともイトトンボ類のビオトープ利用にプラスに働いていると思われる。

南長崎はらっぱ公園では、アメリカザリガニの駆除を開始した平成29年度以来初めて、コシアキトンボの羽化殻を確認することができた。アメリカザリガニの駆除効果によるものと考えられる。

このほか、西巢鴨小学校では未使用期間のプールを利用し、浮島を設置したり、手すりに枝を括り付けトンボ類の誘致を図っているようであった。これらはギンヤンマやシオカラトンボ、アカネ類などによく利用されていた。

バッタ類は、オンブバッタが4地点すべてで確認できた。南長崎はらっぱ公園ではオギ、その他水辺の草本があったためクビキリギスやコバネイナゴが確認できた。この地点では、ハラオカメコオロギが優占種であった。

チョウ類は、ヤマトシジミが4地点で確認できた。仰高小学校のカラスアゲハの飛来は都心ではやや稀な記録である。ゴマダラチョウは、特定外来生物のアカボシゴマダラとの競合や幼虫が越冬する落ち葉が清掃されてしまうことが多いため、都市部では希少になっている。エノキの古木が残り、冬季根元に落ち葉が溜まるような場所で、細々と発生がみられるようである。南池袋小学校でもエノキの根元に落ち葉が溜まるようにすれば、ゴマダラチョウの繁殖地として機能する可能性がある。

今回調査対象とした4地点では、シオカラトンボまたはオオシオカラトンボといったトンボ類、オンブバッタやヤマトシジミといった昆虫が共通して見られた。こういった種は、比較的小さくても水辺や草地があれば誘致可能であることを示している。

西巢鴨小学校のように、未使用期のプールを利用してトンボ類を誘致するということも多様な昆虫を誘致することに一役かっている。今年度は新型コロナウイルス対策でプールを利用できなかった背景があり、例年と状況が異なったが、プール利用が終了した後と同様のことを実施すれば、トンボ類の誘致は可能である。

また水域に水草類を植栽したり、周辺に畑を併設するなどの工夫でさらに多様な種を呼び込むことが出来る。仰高小学校の池のキイトトンボ、西巢鴨小学校の池のクロイトトンボ、南池袋小学校の畑で見られたウラナミシジミなどがその例である。

南池袋小学校の例では、もともとあったと思われる斜面林をビオトープ環境に取り入れており、キシノウエトタテグモといった安定的な環境に依存する種を確認することができた。

草地環境は区内では少なくなっているが、南長崎はらっぱ公園のように、オギなどの草丈の高い草地があれば、クビキリギスやイナゴ類などといった種も呼び込むことが出来る。一律に草を短く刈ってしまうより、一部刈り残して草丈の高い場所を造ることで多様な昆虫類が生息できるようになる。

3. その他小動物調査

3-1 哺乳類

今回の調査では、哺乳類の確認はなかった。

確認する機会を増やすには、調査方法の検討が必要で、夜行性のアブラコウモリは夜に調査を行う必要がある。また、主に夜間に行動する種を対象とした自動撮影カメラを設置して撮影する方法がある。さらに、シャーマントラップを用いることで、ネズミ類が確認できる可能性がある。シャーマントラップとは、調査用の捕獲罠である。

3-2 爬虫類

今回の調査では、爬虫類の確認はなかった。

3-3 両生類

(1) 調査結果概要

1目2科2種を確認した(表Ⅲ-3-1)。全ての調査地においてアズマヒキガエルを確認した。仰高小学校ではヌマガエルを確認した。

表Ⅲ-3-1 両生類確認種一覧

目名	科名	種名	南長崎はらっぱ公園				南池袋小学校				西巣鴨小学校				仰高小学校				備考
			5月	8月	9月	2月	5月	8月	9月	2月	5月	8月	9月	2月	5月	8月	9月	2月	
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				●		●	●	●	●		●	●				●	都RL(区部):NT 南池袋小では11月にも成体確認 放流個体
	ヌマガエル	ヌマガエル														●	●		
1	2	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	
			1				1				1				2				

都RL:東京都レッドリスト NT:絶滅危惧Ⅱ類

※網名、目名については、河川水辺の国勢調査 令和2年度生物リストを参照した。

(2) レッドリスト記載種および外来種

1) レッドリスト記載種

国 RL 記載種の確認はなかった。

都 RL (区部) 記載種は、以下の一種が確認された。

(準絶滅危惧種) アズマヒキガエル (南長崎はらっぱ公園、南池袋小学校、西巣鴨小学校、仰高小学校)

2) 外来種

仰高小学校において、8月7日、9月15日の調査で国内外来種であるヌマガエルを確認した。これは小学校において池に放流されたものであることが判っている。

ヌマガエルは、関東地方においては国内外来種である。本来は、静岡県以西の温暖な地域に生息する種であるが、人為的な持ち込みによって侵入し、関東でも分布が拡大している。在来種であるトウキョウダルマガエルとの競合が懸念されるが、仰高小学校および2012年度以降の豊島区内の調査では、トウキョウダルマガエルは確認されていない。よって、逸出しないよう配慮すれば教育目的でビオトープ内で飼育することは問題ないと考えられる。

【参考文献等】

- ・国立研究開発法人国立環境研究所侵入生物データベース ヌマガエル
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/40090.html>
(2021/3/2 参照)

(3) 各調査地の両生類確認状況

両生類調査は、植物調査、昆虫調査、水生生物調査を並行して行ったため、具体的な日にちを示した。

1) 南長崎はらっぱ公園

アズマヒキガエルを確認した。2月25日に成体1個体（鳴き声で確認）と卵塊を2腹分程度確認した。毎年、冬に産卵を確認しているが、アメリカザリガニによる幼生の捕食による減少がないかどうか、今後もモニタリングを続けていく必要がある。

2) 南池袋小学校

アズマヒキガエルを確認した。ビオトープの斜面林上部周辺で8月7日に雄1個体、11月4日に成体1個体、敷地東側の百葉箱周辺の緑地で9月30日に雄1個体を確認した。2月25日には池で卵塊を7腹分程度確認した。

3) 西巣鴨小学校

アズマヒキガエルを確認した。5月27日に池で幼生（オタマジャクシ）、9月15日に体育館周辺の緑地で雌の大型個体を1個体確認した。2月24日には成体5個体と6腹分程度の卵塊を確認した。

4) 仰高小学校

仰高小学校では、アズマヒキガエルと放流個体である国内外来種のヌマガエルを確認した。

アズマヒキガエルは、2月24日には1腹分程度の卵塊を確認した。

ヌマガエルは、8月7日には体長1.5cm程度の個体を多数確認している。9月15日には池の水生生物調査時に、成体を1個体確認した。

(4) 両生類調査のまとめ

全ての調査地で、アズマヒキガエルの産卵を確認することができた。

水辺が少ないという状況にある豊島区であるが、小規模であってもビオトープ池を創出することによって、繁殖の場が提供できていることは非常に意義のあることである。

本種は夜行性であり、日中の調査では確認確率が低い。また、上陸後乾燥に耐える大きさに成長できたものは遠距離を移動して生息域を拓げる生態を持つが、移動途中の舗装道路での轢死や、成体が生息できるような環境（土のある庭の草むらなど）が少ないなどのリスクも多い。本種が生息するためには、日中に身を隠すことができ、夜間に小動物を採食することのできる樹林や藪などが必要である。

調査地それぞれの周辺環境を鑑みると、生息している成体の個体数はそれほど多くはないと思われる。だからこそ、池や樹林、草むらのあるビオトープの創出に加えて、ビオトープ周辺の住宅の土のある庭や草むら、公園や寺社の緑地を保全していく必要がある。

仰高小学校で確認されたヌマガエルは、教育を目的としてビオトープ内のみで飼育することは問題ないと考えられる。しかし、国内外来種であるため、学校外への逸出が無いように対策をとる必要があると考えられる。



アズマヒキガエル卵塊
(R3年2月25日・南長崎はらっぱ公園)



アズマヒキガエル成体 雄
(R2年8月7日・南池袋小学校)



アズマヒキガエル成体 雌
(R2年9月15日・西巣鴨小学校)



アズマヒキガエル卵塊
(R3年2月24日・仰高小学校)



ヌマガエル上陸直後個体
(R2年8月4日・仰高小学校)

図Ⅲ-3-1 確認された両生類

4. 水生生物調査

(1) 調査結果概要

水生生物調査では、4門6綱14目23科30種を確認した(表Ⅲ-4-1)。種の判明していないもので、重複しているおそれのあるものは、種数合計に含めていない。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 17種、南池袋小学校 6種、西巣鴨小学校 15種、仰高小学校 14種であった。

(2) レッドリスト記載種

移入種を除く国 RL 記載種の確認は無かった。

移入種を除く都 RL (区部) 記載種は以下の2種であった(図Ⅲ-4-1)。

(絶滅危惧ⅠB類) キイトトンボ (仰高小学校)

(準絶滅危惧) アズマヒキガエル (西巣鴨小学校、仰高小学校、南池袋小学校、南長崎はらっぱ公園)

移入種であるが、参考までにレッドリスト記載種を示す。

国RL記載種は以下の一種が確認された。

(絶滅危惧Ⅱ類) ミナミメダカ? (西巣鴨小学校、仰高小学校、南池袋小学校、南長崎はらっぱ公園)

都レッドリスト記載種は以下の一種を確認した。

(絶滅危惧Ⅰ類) ミナミメダカ? (西巣鴨小学校、仰高小学校、南池袋小学校、南長崎はらっぱ公園)

(留意種) ヌカエビ (南長崎はらっぱ公園)

メダカ属の一種は移入された個体で由来がはっきりせず、種までの同定には至らなかったが、在来のメダカは国、都両方のレッドリスト記載種である。



キイトトンボ幼虫
(R2年9月15日・仰高小学校)



アズマヒキガエル卵塊
(R3年2月24日・仰高小学校)

図Ⅲ-4-1 確認された RL 記載種(水生生物類)

表Ⅲ-4-1 水生生物確認種一覧

門名	綱名	目名	科名	No.	種名	南長崎はらっぱ公園		南池袋小学校		西巣鴨小学校		仰高小学校		備考	
						9月	2月	9月	2月	9月	2月	9月	2月		
軟体動物	腹足	新生腹足 汎有肺	タニシ	1	ヒメタニシ			●							
			モノアラガイ	2	ヒメモノアラガイ					●					
			-	-	モノアラガイ科の一種					●		●			
			サカマキガイ	3	サカマキガイ							●			外来種
環形動物	ミミズ	イトミミズ	ヒラマキガイ	4	ヒラマキミズマイマイ					●	●	●	●		
			ミズミミズ	5	エラミミズ										
節足動物	軟甲	ミジンコ カイエビ ヨコエビ エビ	-	7	ミジンコ目の一種						●				
			-	8	カイエビ目の一種								●		
			マミズヨコエビ	9	フロリダマミズヨコエビ										外来種
			ヌマエビ	10	ヌマエビ	●	●								来園者による放流?都RL(区部):留意種
			カワリヌマエビ属の一種	11	カワリヌマエビ属の一種	●	●			●	●	●	●		造成当初の放流
			アメリカザリガニ	12	アメリカザリガニ	●	●	●	●						外来種、来園者による放流
	昆虫	トンボ	イトトンボ	キイトトンボ	13	キイトトンボ							●		都RL(区部):EN
				クロイトトンボ	14	クロイトトンボ							●		
				-	15	イトトンボ科の一種								●	
			ヤンマ	16	クロスジギンヤンマ								●		
			-	-	ギンヤンマ属の一種					●	●				
			トンボ	17	シオカラトンボ									●	
カメムシ	アメンボ カタビロアメンボ マツモムシ	オオシオカラトンボ	18	オオシオカラトンボ			●					●			
		-	-	シオカラトンボ属の一種	●				●	●	●	●			
		コシアキトンボ	19	コシアキトンボ	●										
		ヒメアメンボ	20	ヒメアメンボ											
		ケンシカタビロアメンボ	21	ケンシカタビロアメンボ									●		
		コマツモムシ	22	コマツモムシ									●		
ハエ	ガガンボ	ガガンボ科の一種	23	ガガンボ科の一種		●									
		ユスリカ	24	ユスリカ科の一種	●	●					●		●	モンユスリカ亜科、ユスリカ亜科などを含む	
コウチュウ	ゲンゴロウ	25	ハイロゲンゴロウ								●				
脊椎動物	硬骨魚	コイ	タイリクバラタナゴ	26	タイリクバラタナゴ	●	●							外来種、来園者による放流	
			モツゴ	27	モツゴ	●	●			●	●			管理者による放流	
			ドジョウ	28	ドジョウ	●								●	管理者による放流
	メダカ	29	メダカ属の一種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	管理者による放流 国RL:VU、都RL(区部):CR+EN ミナミメダカ?		
	両生	カエル	ヒキガエル	30	アズマヒキガエル		●		●		●	●	●	都RL(区部):NT 卵塊	
4	6	14	23	30	10	15	4	4	7	15	8	10			
						17		6		15		14			

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト
 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 EN:絶滅危惧Ⅱ類 VU:絶滅危惧Ⅲ類 NT:準絶滅危惧
 ※綱名、目名については、河川水辺の国勢調査 令和2年度生物リストを参照した。
 ※種の判明していないもので、重複しているおそれのあるものは、種数合計に含めていない。

(3) 外来種

外来種は、生態系被害防止外来種リスト記載種が3種確認された（図Ⅲ-4-2）。

(総合対策外来種 重点対策外来種)

タイリクバラタナゴ (南長崎はらっぱ公園)

(総合対策外来種 緊急対策外来種)

アメリカザリガニ (南池袋小学校、南長崎はらっぱ公園)

(総合対策外来種 その他の総合対策外来種)

フロリダマミズヨコエビ (南長崎はらっぱ公園)

その他、仰高小学校でサカマキガイが確認され、外来種は合計4種であった。



タイリクバラタナゴ
(R2年9月30日・南長崎はらっぱ公園)



アメリカザリガニ
(R2年9月30日・南池袋小学校)



フロリダマミズヨコエビ
(R3年2月25日・南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-4-2 確認された外来種(水生生物類)

タイリクバラタナゴはドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、ドブガイのいない南長崎はらっぱ公園の池で繁殖することはない。そのため、特に駆除は必要ないと考えられるが、来園者により放流されたものであるため、ポスター等で抑止を呼び掛けるなど対策が必要である。

アメリカザリガニは雑食性で落葉、水草、水生生物、生物の死骸などを食べる。繁殖力が強く、個体数が急激に増加することで他の動植物が捕食されて数を減らしたり、消失してしまうなどの影響がある。そのため、生物保全を目的とした学校ビオトープを管理する上では、駆除する必要があるといえる。

フロリダマミズヨコエビは在来のヨコエビと競合するといわれているが、人工池で在

来のヨコエビは確認されていないため、駆除等は必要ないと考えられる。

サカマキガイは具体的に在来種の存続を脅かした事例は無いようであるが、多産性で水槽内では水草を食害することがあるようだ。

(4) 各調査地の水生生物確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

3門5綱9目12科17種が確認された(表Ⅲ-4-1)。ビオトープ池造成時に放流された魚類はモツゴ、ドジョウ、メダカ属の一種である。メダカ属の一種はミナミメダカの可能性があるが、目視では判別できないため、属までの同定とした。ミナミメダカは都 RL(区部)記載種であるが移入種のため、希少性の評価の対象ではない。

モツゴとメダカ属の一種は個体数が多く、特に冬期調査では、プラスチック製の人工藻で多くの個体が確認された。人工藻は潜り込んだ小さなザリガニを駆除する目的とアメリカザリガニの食害により、水草が植えられない状況の中で水草の代わりにヤゴ等の隠れ場となるように水中に吊りしているものである(図Ⅲ-4-3)。プラスチック製の人工藻は、小魚類にとっても越冬場所として利用されている可能性が考えられた。ドジョウは、秋期調査で1個体確認されている。アメリカザリガニの駆除作業時に大きさの違うドジョウが複数回、捕獲されているため、複数個体生息していると思われる。

タイリクバラタナゴについては、来園者により放流されたものと考えられる。タイリクバラタナゴは重点対策外来種である。ドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、これらがいなければ繁殖することはない。そのため、特に駆除は必要ないと考えられるが、来園者により放流されたものであるため、ポスター等で抑止を呼び掛けるなど対策が必要である。

外来種であるフロリダマミズヨコエビが多個体数確認された。在来のヨコエビと競合するといわれているが、このビオトープ池で在来のヨコエビは確認されていないため、駆除等は必要ないと考えられる。

カワリヌマエビ属の一種も造成当時に放流されたと思われる。西日本産のミナミヌマエビと輸入された近縁のシナヌマエビ類のいずれかと思われるが、判別が難しいため属までの同定とした。また今回は昨年度に引き続き、ヌカエビが確認された。ヌカエビは近畿以北～東北地方まで分布する日本固有種である。しかし、平成30年度までの調査では確認されていないことから、飼育個体が来園者により放流されたものと思われる。都 RL(区部)記載種で留意種であるが移入種のため、評価の対象ではない。

アメリカザリガニはビオトープ池造成時に放流はされておらず、来園者が放流したものと考えられる。アメリカザリガニが増加すると水草やアズマヒキガエルの幼生(オタマジャクシ)、トンボ類の幼虫(ヤゴ)などを食べてしまうため、池の生物多様性が低下してしまう。実際に、植栽されていたアサザが食害により消失してしまったため、平成29年度から駆除を行っている。冬期調査では、体長2.5cm未満の個体がほとんどで、今年生まれたものが多いと考えられる。

水生昆虫としては、秋期調査でシオカラトンボ属の一種やコシアキトンボの幼虫（ヤゴ）などを確認した。冬期調査ではシオカラトンボとクロスジギンヤンマを1個体ずつ確認した。

秋期調査ではプラスチック製と麻紐製の人工藻でシオカラトンボ属の一種を確認し、冬期調査ではプラスチック製の人工藻でクロスジギンヤンマが確認できた。クロスジギンヤンマの幼虫（ヤゴ）の確認は平成29年度の水生生物調査開始以来、初めてである。人工藻の設置当初は麻紐製でのみトンボ類の幼虫（ヤゴ）が確認されたが、プラスチック製でも平成29年度の冬以降は確認されているため、隠れ場としての効果に材質はあまり影響しないようである。耐久性を考えるとプラスチック製の方が利用しやすい。

トンボ類の幼虫（ヤゴ）はアメリカザリガニに捕食されていると思われるが、継続的なアメリカザリガニ駆除作業によって、トンボ類の幼虫（ヤゴ）への捕食圧が下がったものと思われる。アメリカザリガニの駆除作業の効果が徐々に出てきたものと思われる。「2. 昆虫類調査」で述べたが、コシアキトンボの羽化殻をアメリカザリガニ駆除作業を開始して以来、初めて確認できた。しかし、まだトンボ類の幼虫（ヤゴ）の個体数は少ないため、引き続きアメリカザリガニの駆除を続ける必要がある。

その他、ミズミミズ科の一種が確認された。これらはアカムシと呼ばれるユスリカ科の一種の幼虫などとともに魚類やトンボ類の幼虫などの食物となっていると考えられる。

両生類はアズマヒキガエル卵塊が確認された。両生類については前述の「3. その他小動物 3-3 両生類」に示した。



麻紐で作成した人工藻



プラスチック製人工藻
左：ロープ状 右：糸状



設置状況（麻紐製）



設置状況（プラスチック製）

図Ⅲ-4-3 人工藻



フロリダマミズヨコエビ
(R3年2月25日・南長崎はらっぱ公園)



ヌカエビ (R3年2月25日・南長崎はらっぱ公園)



カワリヌマエビ属の一種
(R2年9月30日・南長崎はらっぱ公園)



コシアキトンボ
(R2年9月30日・南長崎はらっぱ公園)



ヒメアメンボ
(R3年2月25日・南長崎はらっぱ公園)



タイリクバラタナゴ
(R2年9月30日・南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-4-4 確認された主な水生生物(南長崎はらっぱ公園)

2) 南池袋小学校

南池袋小学校のビオトープ池では4門6綱6目6科6種が確認された。このビオトープ池ではアメリカザリガニの個体数が多かった。冬期調査では、体長3.5cm未満の個体がほとんどで、今年生まれたものが多いと考えられる。

貝類（複足綱）は、ヒメタニシが1個体確認された。放流されたものであるが、アメリカザリガニに捕食されている可能性がある。

水生昆虫は、秋期調査ではシオカラトンボ属の一種の幼虫（ヤゴ）が確認されたが、冬期調査では確認できなかった。

魚類は、メダカ属の一種が確認されている。卵や稚魚も確認されているため、繁殖できているものと推察した。

冬期調査でミズミズ科の一種が多個体数確認されており、シオカラトンボ属の一種の幼虫（ヤゴ）やメダカの食物になっていると考えられる。

両生類はアズマヒキガエルの卵塊が確認された。両生類については前述の「3. その他小動物 3-3 両生類」に示した。

全調査地の中で最も水生生物の種数が少なく、アメリカザリガニの捕食の影響が大きいと考えられる。秋期調査後にプラスチック製のカゴに入れられたホテイアオイとイヌホタルイを植栽したプランターが水中に設置されていた。オオカナダモも植栽したが、アメリカザリガニが食べ、消失してしまったそうである。水生植物が植えられたものの隠れ場が少ないことが水生生物が少ないことの一因であると考えられる。



ヒメタニシ
(R2年9月30日・南池袋小学校)



ミズミズ科の一種
(R3年2月25日・南池袋小学校)



アメリカザリガニ
(R2年9月30日・南池袋小学校)



オオシオカラトンボ
(R2年9月30日・南池袋小学校)



メダカ属の一種
(R2年9月30日・南池袋小学校)



アズマヒキガエル卵塊
(R3年2月25日・南池袋小学校)

図Ⅲ-4-5 確認された水生生物(南池袋小学校)

3) 西巣鴨小学校

西巣鴨小学校のビオトープ池では3門5綱9目14科15種が確認された。ヒラマキミズマイマイの一種やカワリヌマエビ属の一種などの個体数が多かった。魚類も多个体数確認されており、メダカ属の一種、モツゴが見られた。冬期調査でクロスジギンヤンマの幼虫（ヤゴ）やハイイロゲンゴロウといった肉食性水生昆虫が複数種確認されたことが特徴的であった。

貝類（複足綱）は、ヒラマキミズマイマイとヒメモノアラガイが多かった。ヒラマキミズマイマイは水田などに生息している貝類である。これらの貝類は、管理者により放流されたものか、水生植物の移植時に持ち込まれたものと思われる。この他に、おそらくヒメモノアラガイのものであろうモノアラガイ科の一種の卵塊も確認されており、ビオトープ内で繁殖している可能性が示唆された。

軟甲綱は、カワリヌマエビ属の一種が多个体数確認されている。管理者による放流か、水生植物の移植時に持ち込まれたものと考えられる。その他、ミジンコ目の一種が確認された。

水生昆虫類のうちトンボ目は、クロスジギンヤンマやシオカラトンボ属の一種、クロイトトンボなどの幼虫（ヤゴ）が確認されている。シオカラトンボ属の一種の幼虫は、ビオトープ池の端に溜まったわずかな泥の中から確認された。また、シオカラトンボ属の一種の羽化殻を確認した。

このほか、肉食性であることが知られているハイイロゲンゴロウやケシカタビロアメンボ、コマツモムシが確認されている。これらの種は飛翔性がある種である。このビオトープを訪れた要因として、水草などの隠れる場所があり、ユスリカ科の一種の幼虫（アカムシ）などの小さな水生生物が豊富なことが考えられる。また、アメリカザリガニがいないことも、トンボ目の幼虫（ヤゴ）をはじめとする、水生昆虫が生息できる要因の一つと考えられる。

魚類は、メダカ属の一種とモツゴが確認された。これらは放流されたものである。

両生類はアズマヒキガエルの卵塊が確認された。両生類については前述の「3. その他小動物 3-3 両生類」に示した。



ヒメモノアラガイ
(R2年9月15日・西巣鴨小学校)



ギンヤンマ属の一種
(R2年9月15日・西巣鴨小学校)



ケシカタビロアメンボ
(R3年2月24日・西巣鴨小学校)



コマツモムシ
(R3年2月24日・西巣鴨小学校)



ハイイロゲンゴロウ
(R3年2月24日・西巣鴨小学校)



モツゴ
(R2年9月15日・西巣鴨小学校)

図Ⅲ-4-6 確認された主な水生生物(西巣鴨小学校)

4) 仰高小学校

仰高小学校のビオトープ池では4門6綱9目12科14種が確認された。モノアラガイ科の一種やヒラマキミズマイマイといった貝類やカワリヌマエビ属の一種の個体数が多かった。メダカ属の一種も多个体数確認された。

昆虫類は、都 RL (区部) で絶滅危惧 I B 類 (EN) のキイトトンボが確認されている。キイトトンボは羽化殻も確認しており、この池で繁殖していることが確認された。水生昆虫はそのほかに、オオシオカラトンボやシオカラトンボ、イトトンボ科の一種が確認されている。オオシオカラトンボは植物の春期調査時に羽化殻を確認し、繁殖していることが確認された。

貝類 (腹足綱) は、ヒラマキミズマイマイとモノアラガイ科の一種が多数確認されたほか、ヒメタニシの貝殻も確認された。ヒメタニシは生きた個体でなかったため、確認種リストから除外した。これらの貝類は、管理者により放流されたものか、水生植物の移植時に持ち込まれたものと思われる。外来種であるサカマキガイも1個体確認されている。

軟甲綱は、カワリヌマエビ属の一種が確認された。管理者による放流か、水生植物の移植時に持ち込まれたものと思われる。その他、カイエビ目の一種が確認された。

魚類は、メダカ属の一種とドジョウが確認された。どちらも放流されたものである。

両生類は、アズマヒキガエルの卵塊が確認された。岸でヌマガエルの成体を確認したが、水中でなかったため、確認種リストから除外した。これも移入したものと聞いている。両生類については前述の「3. その他小動物 3-3 両生類」に示した。



ヒラマキミズマイ
(R3年2月24日・仰高小学校)



キイトンボ幼虫
(R2年9月15日・仰高小学校)



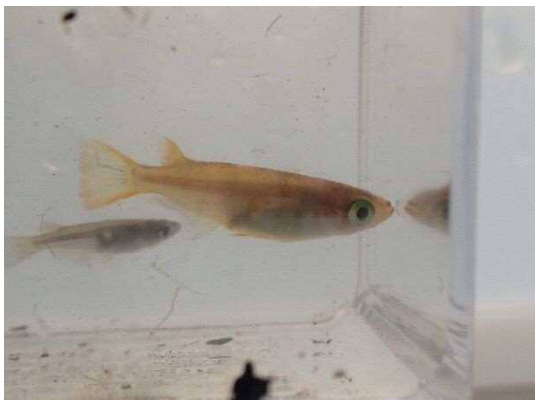
イトトンボ科の一種
(R3年2月24日・仰高小学校)



ユスリカ亜科の一種
(R3年2月24日・仰高小学校)



ドジョウ
(R3年2月24日・仰高小学校)



メダカ属の一種
(R2年9月15日・仰高小学校)

図Ⅲ-4-7 確認された主な水生生物(仰高小学校)

(5) 水生生物類調査のまとめ

1) 南長崎はらっぱ公園

トンボ類の幼虫（ヤゴ）は3種確認され、うち、クロスジギンヤンマは平成29年度の水生生物調査開始以来、初めての確認となった。クロスジギンヤンマは平成29～30年度に池の脇に設置したトロ舟ビオトープでも多数幼虫が確認されており、アメリカザリガニが池に生息していなければ、本来は多く生息している種である。そのような種が確認できたことは、アメリカザリガニの駆除効果が出ているということである。コシアキトンボの羽化殻が昆虫類調査で今年度初確認できているが、トンボ類の幼虫の個体数はまだ少ないため、引き続きアメリカザリガニの駆除作業を行う必要がある。

アズマヒキガエルの産卵が毎年確認され、水辺が少ない区内では貴重な生息地となっていると考えられる。池の中でも浅い水域に集中して産卵しており、産卵床となる枯草などを残していたので産卵できたものと考えられる。

このほか、放流された淡水産ヌマエビ類であるが、カワリヌマエビ属の一種はすでに定着している。今年度の調査ではヌカエビも確認数が多く、増加していることがわかった。自然水域の下流域では、在来種であるヌカエビのいる環境にカワリヌマエビ属が入り込むと、数年で種が入れ替わってしまう例が時々見られるが、このビオトープ池では、ヌカエビも定着しつつあることが示唆された。

人工藻の設置当初は麻紐製でのみトンボ類の幼虫（ヤゴ）が確認されたが、プラスチック製でも平成29年度の冬以降は確認されているため、トンボ類の幼虫（ヤゴ）隠れ場としての効果に材質はあまり影響しないようである。冬期調査ではメダカ、モツゴなどの魚類が多く見付き、魚類の越冬場所としても機能しているようである。アメリカザリガニの捕食圧が十分に下がったら、水生植物を植栽してこの機能を持たせることが望ましい。

2) 南池袋小学校

このビオトープ池ではアメリカザリガニの個体数が多く、今年繁殖したと思われる小さな個体も多かった。秋期調査ではシオカラトンボ属の一種の幼虫（ヤゴ）が確認されたが、冬期調査では確認できなかった。水草が少ないため、隠れ場が少なく、アメリカザリガニの捕食圧もかかるため、トンボ類の幼虫（ヤゴ）にとって生息しにくい環境であるといえる。

一方で、メダカ属の一種は繁殖できているものと推察された。一部の水生植物を守るために、目の粗いかごが設置されており、その中ではアメリカザリガニの影響を受けずに繁殖できるようである。また、ミズミミズ科の一種といった食物となる生物も確認されている。

植栽されたオオカナダモの食害やヒメタニシの捕食の可能性もあり、アメリカザリガニを一度放流してしまうと、ビオトープの生物多様性が大きく低下することが見て取れる。アメリカザリガニの駆除を継続して行い、水生植物への捕食圧を下げつつ、水生植物を追加植栽し、水生生物の隠れ場を増やしていくことが望ましい。

3) 西巣鴨小学校

西巣鴨小学校のビオトープ池では、クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ属の一種などの幼虫が確認され、シオカラトンボ属の一種は羽化殻も確認されている。その他、ハイイロゲンゴロウやコマツモムシなどの肉食性水生昆虫が飛来していた。また、アズマヒキガエルの卵塊数も多く、今年度調査したビオトープ池の中では、比較的 to 多様性の高い環境であると考えられた。

水生植物や藻類が豊富で隠れる場所があることや、食物となるユスリカ科の一種の幼虫（アカムシ）などの小さな水生生物が豊富なこと、アメリカザリガニが生息していないことが要因であると考えられる。

単純な構造のコンクリート池でも水生植物を植栽し、適切な維持管理をすることで、水生生物の多い生物多様性の豊かな水辺が創出できた好事例といえる。

ただし、ハイイロゲンゴロウのような陸に上がって蛹化する水生昆虫類は、繁殖できない環境であるため定着することは難しいと考えられた。

4) 仰高小学校

今年度調査したビオトープ池の中で唯一、都 RL（区部）で絶滅危惧 I B 類（EN）のキイトトンボの幼虫（ヤゴ）が確認されている。キイトトンボを含む止水性イトトンボ類の多くは水生植物が豊富に生育する岸近くの浅い水域を好む。キイトトンボ以外にもイトトンボ科の一種が確認されている。

仰高小学校のビオトープ池は、水生植物が植栽されており、アメリカザリガニなどの捕食性外来生物も確認されていないことから、本種が生息しやすい環境であったと考えられる。

キイトトンボは羽化殻を確認しており、繁殖地としてこのビオトープが機能していることが分かった。また、昆虫調査時に染井霊園と隣接する草地で成虫を確認している。成虫は繁殖可能になる前の時期（前生殖期）を草地や樹林地で過ごす。トンボ類の食物となる昆虫類などが生息する樹林や草地が隣接していることもトンボ類が生息できる要因となっていると考えられる。

その他、オオシオカラトンボの羽化殻も確認され、繁殖していることが分かっている。

5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案

(1) 南長崎はらっぱ公園

1) ビオトープ

南長崎はらっぱ公園ビオトープについては、アメリカザリガニの駆除作業を継続しつつ、池畔の植物が繁茂する時期に適度な除草を行って開水面を確保することによって、トンボ類の飛来しやすい水辺ビオトープが維持できると考えられる。人工藻の設置もアメリカザリガニの捕食圧が低下して水草が植えられるようになるまでの水草の代替としてトンボ類幼虫の生息場所として有効である。

また、都市公園内にあるビオトープで周辺住民にとって身近な緑地であり、さまざまな人が訪れる。その際、タイリクバラタナゴのように、外来種などの生物が持ち込まれることがこれからも有りうる。調査では見つかっていないが、今年度はミシシッピアカミミガメがビオトープ池で目撃されており、トンボ類の幼虫（ヤゴ）やメダカ属の一種が捕食されてしまう可能性がある。アメリカザリガニ駆除と並行して、これらについても定期的に点検し、必要に応じて駆除作業を実施することが適切と思われる。

南長崎はらっぱ公園の池の底質は粘土質であるが、ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫の食物となる落ち葉などの有機質が増えてきた。ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫などの底生生物はヤゴの食物となるので、この環境は維持すべきである。

一方で、今年度は、底質の増加により水深が浅くなったため、10cmほど水を足して水深を維持したと聞いている。これは岸辺の樹木の落ち葉や、ヨシ、ヒメガマ類等の枯れ葉などが堆積したものである。これらは底生生物の食物となるだけでなく、身を隠す場所としても利用できるため、ある程度の供給が必要である。しかし、泥土が堆積しすぎるとヘドロ状を呈し、生物相が単調になりがちなので、定期的に底泥を除去する必要があると考えられる。

ビオトープの水辺とビオトープの北西側に隣接した花壇で特定外来生物のオオカワヂシャが確認された。調査後に種子がなるべく落ちないように抜き取って廃棄したが、今後も生育を確認したら、分布を拡大しないように除草を行うことが望ましい。

今年度はビオトープ池の周辺にセイヨウキランソウが分布を広げていた。また、マルバフジバカマもビオトープおよび目白通り沿いの出入口付近の植栽しに点在し、増加しつつある。特定の種のみが増えてしまい、他の植物が生育しにくくなることは望ましくないため、除草することが望ましい。

その他の植生管理等に関しては「平成30年度 豊島区の生きもの情報共有事業支援業務報告書」の巻末の「南長崎はらっぱ公園ビオトープ管理マニュアル」をご参照いただきたい。

2) いのちの森

いのちの森に植栽された樹木に混じって、生態系被害防止外来種リスト記載種のトウネズミモチ、シュロが生育していることが確認された。これらが生長して開花結実すると鳥類により種子が散布されてしまうため、伐採を行うことが望ましい。

本来は沖縄県に分布し、近年植栽されることの多くなった国内外来種のシマトネリコが逸出して、樹林内に生育している。これも開花結実しないように伐採することが望ましい。

3) 園内全域

マルバフジバカマは目白通り沿いの出入口付近やビオトープなどに点在しているが、花が咲くと分かりやすいため、晩夏から秋の開花時期に抜き取ることが望ましい。

ニワウルシ（シンジュ）、トウネズミモチは公園内に点在し、一部は根元から伐採されていたが、調査時には枝葉を伸ばしていた。ある程度大きくなっているため、伐根は難しいと思われるため、定期的に根元から伐採することが望ましい。

(2) 南池袋小学校

1) ビオトープ池

南池袋小学校のビオトープ池ではアメリカザリガニの個体数が多く、繁殖も確認された。南長崎はらっぱ公園ビオトープと同様に、継続的なアメリカザリガニの駆除作業が必要であると考えられる。

現在、ホテイアオイがプラスチック製のカゴの中に植栽されており、結果的にアメリカザリガニの食害から守られていた（図Ⅲ-5-1）。カゴの網目はメダカは通ることができ、ある程度大きくなったアメリカザリガニは通ることができないため、メダカの隠れ場としても有効であるようだ。

アメリカザリガニの個体数がある程度減少するまでは、一部の水生植物を守るためのカゴの設置を継続し、水生植物と併せてメダカ属の一種も保全していくことが望ましい。同時に池の中心部に隠れ場となるものを設置するとさらに効果があるのではないかと考えられる。例えば、水生植物とそれを守るためのかごを複数設置することが考えられる。

南長崎はらっぱ公園と同様に水中に人工藻を設置してメダカ属の一種やトンボ類の幼虫（ヤゴ）の隠れ場を造ることも有効と考えられる。



図Ⅲ-5-1 プラスチック製のカゴに植栽されたホテイアオイ

2) ビオトープの樹林とその周辺

ビオトープの樹林内には地歴が古いことにより、ウラシマソウ、ムラサキケマン、サネカズラ、マルバスマシレなど区内では珍しくなった在来種が生育していた。林床はアズマネザサが優占しているが、年1回冬にササ刈りを行うと春に林床の植物が芽吹きやすくなると考えられる。

ムラサキケマンは斜面林上部に隣接する花壇で秋期調査時に実生が多数確認された。林床では個体数が少なかった。区内では珍しくなっている植物のため、花壇の一部に

ムラサキケマンの実生を残して保全するエリアをつくって保全することが望ましい。ただし、全草が有毒なため、誤食しないよう花壇に注意を促すサインを設置する必要がある。種子は6月頃に熟し、一年後の春に発芽し、初夏に地上部を枯らして地下に塊茎をつくって休眠し、秋に発芽して越冬し、翌春に開花結実するという少し特殊な生態である。果実ははじけて種子を飛ばし、種子にはエライオソームという栄養価の高い付属物があり、それを目当てにしたアリに種子を運ばせる仕組みになっている。有毒ではあるが、食べなければ問題はなく、理科教材にもできる植物である。

樹林内ではシュロが結実しており、鳥類により種子が運ばれたと思われるトウネズミモチも点在していた。シュロの果実を鳥類が食べることにより、校内だけでなく校外の緑地にも種子が運ばれてしまうため、伐採することが望ましい。トウネズミモチは開花結実しないように剪定か伐採することが望ましい。

3) その他の場所

校舎東側の草地と校舎西側の植栽地の一部に、重点対策外来種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）がマット状に生育していた。他の植物を覆ってしまうため、除草することが望ましい。

グラウンドの南側のフェンスに同じくのマメアサガオが生育し、高い位置までつるが伸びていた。種子を大量につくるため、次年度以降も同じ位置に生育すると考えられる。今後は分布が拡大しないように、開花結実する前に除草することが望ましい。

(3) 西巣鴨小学校

1) ビオトープ

西巣鴨小学校のビオトープ池は、水生植物が豊富でイトトンボ類が産卵に利用でき、水生生物の隠れ場があること、アメリカザリガニが生息していないことから、比較的生物多様性の高い環境であると考えられた。今の環境を維持することが、まずは最優先であると考えられる。

トンボ類が羽化するには抽水植物が必要となる。図Ⅲ-5-2のように植物体の一部が水に浸かった状態になっている植物があれば羽化できる。現在は植物体が水面より上になっているプランターもあるが、全てのプランターを無理に沈めなくても一部でも羽化できるような場所をつくれば問題ない。

ハイイロゲンゴロウなどが定着するには、土手のような土や泥でできた淵が必要であり、コンクリート池の一部にそのような環境を造ることは可能である。しかし、その後の維持管理については、維持管理を行うボランティアの方との調整が必要である。その他、池底の一部に泥を溜め、トンボ類の幼虫が潜って身を隠す場所を造ったり、落ち葉や水生植物の枯草が積もる場所を少し造ることで、ユスリカ科の一種の幼虫などの底生生物が生息し、メダカやトンボ類の幼虫の食物が供給できるようになり、より多様な水生生物が定着できるようになると考えられる。

また、捕食性外来生物の影響が懸念されるため、アメリカザリガニやミシシippアカミミガメといった天敵が放流されないように注意喚起をおこなうことも保全策の一つとして考えられる。



図Ⅲ-5-2 トンボが羽化できる場所を提供する抽水植物

2) グラウンドの周囲

グラウンドの北東側の遊具のある一角に古タイヤで造られた遊具があり、その根元にコスミレが生育していた。古くからある学校であるため、地歴の古い土壌が残り在来種が生育し続けることができたと考えられる。区内では在来種のスミレ類が少ないため、除草せずに残して欲しい植物である。

敷地の東南側の角にはトウネズミモチの高木が生育していた。調査時に結実を確認していないが、結実している場合は果実を食べた鳥類が糞をすることによって種子が遠くまで運ばれるため、開花結実しないように剪定するか伐採することが望ましい。

(4) 仰高小学校

1) ビオトープ

仰高小学校のビオトープに生息するキイトンボを含む止水性イトトンボ類の多くは水生植物が豊富に生育する岸近くの浅い水域を好む。よって、現在のような水生植物のある環境を維持することが望ましい。

また、捕食性外来生物の影響が懸念されるため、アメリカザリガニやミシシippアカミミガメといった天敵が放流されないように注意喚起をおこなうことも保全策の一つとして考えられる。

2) 南門からグラウンドまでの通路

区内では珍しいエビヅルとムラサキケマンが生育していた。個体数が少なく見つけづらいと思われるが、可能ならば除草せずにその場で保全するか、除草されにくい花壇に移植するなど対策することが望ましい。

3) 校舎の北西側

自転車置場に隣接する土の溜められた場所に、生態系被害防止外来種リスト記載種のノハカタカラクサ（トキワツユクサ）がマット状に生育していた。生育範囲を広げやすい植物であるため、除草することが望ましい。

(5) ビオトープ全般に対する提案

ビオトープにアメリカザリガニが入ってしまうと水生生物が少なくなってしまうことが今回の調査からも明らかになった。アメリカザリガニは教材にも使われているた

め、放流した人は良かれと思って放流した可能性もある。

よって、学校ビオトープを設置した学校に注意喚起をするポスターを配布することを提案する。内容は図Ⅲ-5-3のような南長崎はらっぱ公園に設置したポスターのようなものと、なぜ放流してはいけないかを説明した資料またはポスターを合わせて配布することを提案する。説明資料は読んでもらえるように A4 サイズ 1 枚程度に完結にまとめたものが望ましいと思われる。

今後、一般的なビオトープに共通する維持管理マニュアルの配布も必要になると思われるが、まずはアメリカザリガニなどの外来種を放流しないように注意喚起をすることが必要であると考えられる。



図Ⅲ-5-3 ビオトープの注意喚起ポスター

令和 2 年度 豊島区動植物生態調査報告書

令和 3 年（2021 年）3 月

豊島区 環境清掃部 環境政策課
